

第14講

小幡道昭

2015年12月22日

資本主義のゆくえ

発展段階論

- 1 資本主義の生成・発展・没落という枠組では捉えきれない世界にさまよいこんでいる。

発展段階論

- 1 資本主義の生成・発展・没落という枠組では捉えきれない世界にさまよいこんでいる。
- 2 「没落」というのが、「死滅」「崩壊」ではなく「爛熟」 matured の意味だとしても....

発展段階論

- 1 資本主義の生成・発展・没落という枠組では捉えきれない世界にさまよいこんでいる。
- 2 「没落」というのが、「死滅」「崩壊」ではなく「爛熟」matured の意味だとしても....
- 3 西ヨーロッパ諸国、合衆国、日本が資本主義化した19-20世紀のあと、世界的にみると、資本主義として発展できた国はなかった。

発展段階論

- 1 資本主義の生成・発展・没落という枠組では捉えきれない世界にさまよいこんでいる。
- 2 「没落」というのが、「死滅」「崩壊」ではなく「爛熟」matured の意味だとしても....
- 3 西ヨーロッパ諸国、合衆国、日本が資本主義化した19-20世紀のあと、世界的にみると、資本主義として発展できた国はなかった。
- 4 帝国主義・植民地主義の時代から戦後の南北問題の時代に続く「長い20世紀」

発展段階論

- 1 資本主義の生成・発展・没落という枠組では捉えきれない世界にさまよいこんでいる。
- 2 「没落」というのが、「死滅」「崩壊」ではなく「爛熟」matured の意味だとしても....
- 3 西ヨーロッパ諸国、合衆国、日本が資本主義化した19-20世紀のあと、世界的にみると、資本主義として発展できた国はなかった。
- 4 帝国主義・植民地主義の時代から戦後の南北問題の時代に続く「長い20世紀」
- 5 低開発から脱する道は「社会主義」

発展段階論

- 1 資本主義の生成・発展・没落という枠組では捉えきれない世界にさまよいこんでいる。
- 2 「没落」というのが、「死滅」「崩壊」ではなく「爛熟」matured の意味だとしても....
- 3 西ヨーロッパ諸国、合衆国、日本が資本主義化した19-20世紀のあと、世界的にみると、資本主義として発展できた国はなかった。
- 4 帝国主義・植民地主義の時代から戦後の南北問題の時代に続く「長い20世紀」
- 5 低開発から脱する道は「社会主義」
- 6 しかし、20世紀末に、新たな資本主義の勃興（＝グローバリズムの底流）

発展段階論

- 1 資本主義の生成・発展・没落という枠組では捉えきれない世界にさまよいこんでいる。
- 2 「没落」というのが、「死滅」「崩壊」ではなく「爛熟」matured の意味だとしても....
- 3 西ヨーロッパ諸国、合衆国、日本が資本主義化した19-20世紀のあと、世界的にみると、資本主義として発展できた国はなかった。
- 4 帝国主義・植民地主義の時代から戦後の南北問題の時代に続く「長い20世紀」
- 5 低開発から脱する道は「社会主義」
- 6 しかし、20世紀末に、新たな資本主義の勃興（=グローバリズムの底流）
- 7 「不思議な世界」にさまよい込んだ気がする

発展段階論

- 1 資本主義の生成・発展・没落という枠組では捉えきれない世界にさまよいこんでいる。
- 2 「没落」というのが、「死滅」「崩壊」ではなく「爛熟」maturedの意味だとしても....
- 3 西ヨーロッパ諸国、合衆国、日本が資本主義化した19-20世紀のあと、世界的にみると、資本主義として発展できた国はなかった。
- 4 帝国主義・植民地主義の時代から戦後の南北問題の時代に続く「長い20世紀」
- 5 低開発から脱する道は「社会主義」
- 6 しかし、20世紀末に、新たな資本主義の勃興（＝グローバリズムの底流）
- 7 「不思議な世界」にさまよい込んだ気がする
- 8 資本主義の「起源」から考えてみる必要がある。

単一起源説

- 資本主義はイギリスで発生し、それが全世界に波及したとみる立場。

単一起源説

- 資本主義はイギリスで発生し、それが全世界に波及したとみる立場。
- 労働力商品化を資本主義の本質と捉え、「土地囲い込み」に重点をおく。

単一起源説

- 資本主義はイギリスで発生し、それが全世界に波及したとみる立場。
- 労働力商品化を資本主義の本質と捉え、「土地囲い込み」に重点をおく。
- 「土地と労働力の分離 → 近代プロレタリアートの形成」が基本線。

単一起源説

- 資本主義はイギリスで発生し、それが全世界に波及したとみる立場。
- 労働力商品化を資本主義の本質と捉え、「土地囲い込み」に重点をおく。
- 「土地と労働力の分離 → 近代プロレタリアートの形成」が基本線。
- しかし、イギリス資本主義の誕生はおとぎの国...

単一起源説

- 資本主義はイギリスで発生し、それが全世界に波及したとみる立場。
- 労働力商品化を資本主義の本質と捉え、「土地囲い込み」に重点をおく。
- 「土地と労働力の分離 → 近代プロレタリアートの形成」が基本線。
- しかし、イギリス資本主義の誕生はおとぎの国...
 - 1 「土地囲い込み → プロレタリアート → マニュファクチュア」ではない。

単一起源説

- 資本主義はイギリスで発生し、それが全世界に波及したとみる立場。
- 労働力商品化を資本主義の本質と捉え、「土地囲い込み」に重点をおく。
- 「土地と労働力の分離 → 近代プロレタリアートの形成」が基本線。
- しかし、イギリス資本主義の誕生はおとぎの国...
 - 1 「土地囲い込み → プロレタリアート → マニュファクチュア」ではない。
 - 2 「マニュファクチュア（「工場制手工業」） → 機械制大工業」だったのか？

単一起源説

- 資本主義はイギリスで発生し、それが全世界に波及したとみる立場。
- 労働力商品化を資本主義の本質と捉え、「土地囲い込み」に重点をおく。
- 「土地と労働力の分離 → 近代プロレタリアートの形成」が基本線。
- しかし、イギリス資本主義の誕生はおとぎの国...
 - 1 「土地囲い込み → プロレタリアート → マニュファクチュア」ではない。
 - 2 「マニュファクチュア（「工場制手工業」） → 機械制大工業」だったのか？
 - 3 「土地囲い込み → プロレタリアート → マニュファクチュア」は考えられない。

単一起源説

- 資本主義はイギリスで発生し、それが全世界に波及したとみる立場。
- 労働力商品化を資本主義の本質と捉え、「土地囲い込み」に重点をおく。
- 「土地と労働力の分離 → 近代プロレタリアートの形成」が基本線。
- しかし、イギリス資本主義の誕生はおとぎの国...
 - 1 「土地囲い込み → プロレタリアート → マニュファクチュア」ではない。
 - 2 「マニュファクチュア（「工場制手工業」） → 機械制大工業」だったのか？
 - 3 「土地囲い込み → プロレタリアート → マニュファクチュア」は考えられない。
 - 4 商人資本の「家内制手工業」 → 産業資本の「機械制大工業」という発展か？

単一起源説

- 資本主義はイギリスで発生し、それが全世界に波及したとみる立場。
- 労働力商品化を資本主義の本質と捉え、「土地囲い込み」に重点をおく。
- 「土地と労働力の分離 → 近代プロレタリアートの形成」が基本線。
- しかし、イギリス資本主義の誕生はおとぎの国...
 - 1 「土地囲い込み → プロレタリアート → マニュファクチュア」ではない。
 - 2 「マニュファクチュア（「工場制手工業」） → 機械制大工業」だったのか？
 - 3 「土地囲い込み → プロレタリアート → マニュファクチュア」は考えられない。
 - 4 商人資本の「家内制手工業」 → 産業資本の「機械制大工業」という発展か？
 - 5 でもプロレタリアートの形成 → 「家内制手工業」はありえない。

単一起源説

- 資本主義はイギリスで発生し、それが全世界に波及したとみる立場。
- 労働力商品化を資本主義の本質と捉え、「土地囲い込み」に重点をおく。
- 「土地と労働力の分離 → 近代プロレタリアートの形成」が基本線。
- しかし、イギリス資本主義の誕生はおとぎの国...
 - 1 「土地囲い込み → プロレタリアート → マニュファクチュア」ではない。
 - 2 「マニュファクチュア（「工場制手工業」） → 機械制大工業」だったのか？
 - 3 「土地囲い込み → プロレタリアート → マニュファクチュア」は考えられない。
 - 4 商人資本の「家内制手工業」 → 産業資本の「機械制大工業」という発展か？
 - 5 でもプロレタリアートの形成 → 「家内制手工業」はありえない。
 - 6 プロレタリアートの形成 → 「機械制大工業」による吸収しかない。とすると.....

単一起源説

- 資本主義はイギリスで発生し、それが全世界に波及したとみる立場。
- 労働力商品化を資本主義の本質と捉え、「土地囲い込み」に重点をおく。
- 「土地と労働力の分離 → 近代プロレタリアートの形成」が基本線。
- しかし、イギリス資本主義の誕生はおとぎの国...
 - 1 「土地囲い込み → プロレタリアート → マニュファクチュア」ではない。
 - 2 「マニュファクチュア（「工場制手工業」） → 機械制大工業」だったのか？
 - 3 「土地囲い込み → プロレタリアート → マニュファクチュア」は考えられない。
 - 4 商人資本の「家内制手工業」 → 産業資本の「機械制大工業」という発展か？
 - 5 でもプロレタリアートの形成 → 「家内制手工業」はありえない。
 - 6 プロレタリアートの形成 → 「機械制大工業」による吸収しかない。とすると.....
 - 7 それまで、プロレタリアートはどこに潜んでいたのか？

起源の多義性

「起源」の問題は、今日の新興国における製造業の雇用形態、経営様式をみながら、ふり返ってみる必要がある。

起源の多義性

「起源」の問題は、今日の新興国における製造業の雇用形態、経営様式をみながら、ふり返ってみる必要がある。

土地囲い込み

起源の多義性

「起源」の問題は、今日の新興国における製造業の雇用形態、経営様式をみながら、ふり返ってみる必要がある。

土地囲い込み

マニファクチュア



起源の多義性

「起源」の問題は、今日の新興国における製造業の雇用形態、経営様式をみながら、ふり返ってみる必要がある。

土地囲い込み

機械制大工業

マニファクチュア

```
graph LR; A[土地囲い込み] -.-> B[マニファクチュア]; C[機械制大工業]
```

起源の多義性

「起源」の問題は、今日の新興国における製造業の雇用形態、経営様式をみながら、ふり返ってみる必要がある。

土地囲い込み

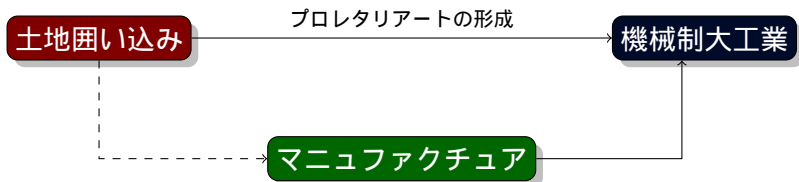
機械制大工業

マニファクチュア

```
graph LR; A[土地囲い込み] -.-> B[マニファクチュア]; B --> C[機械制大工業]
```

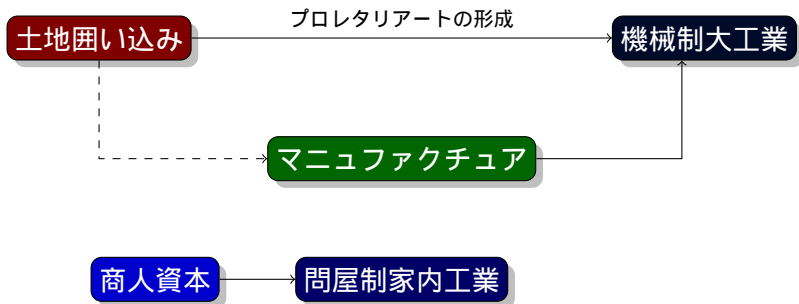
起源の多義性

「起源」の問題は、今日の新興国における製造業の雇用形態、経営様式をみながら、ふり返ってみる必要がある。



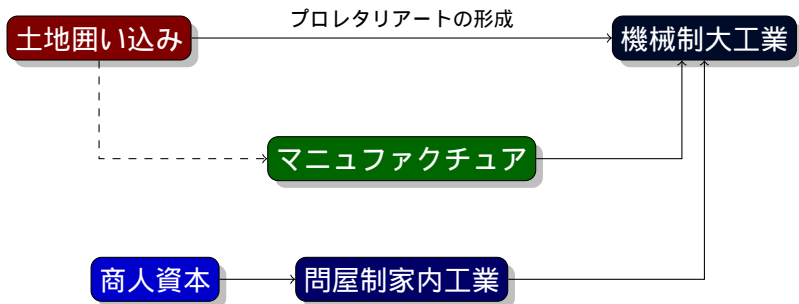
起源の多義性

「起源」の問題は、今日の新興国における製造業の雇用形態、経営様式をみながら、ふり返ってみる必要がある。



起源の多義性

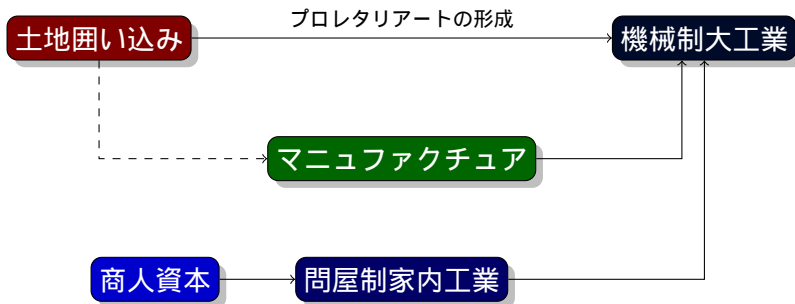
「起源」の問題は、今日の新興国における製造業の雇用形態、経営様式をみながら、ふり返ってみる必要がある。



起源の多義性

「起源」の問題は、今日の新興国における製造業の雇用形態、経営様式をみながら、ふり返ってみる必要がある。

資本主義的農業



起源の多義性

「起源」の問題は、今日の新興国における製造業の雇用形態、経営様式をみながら、ふり返ってみる必要がある。

資本主義的農業

土地囲い込み

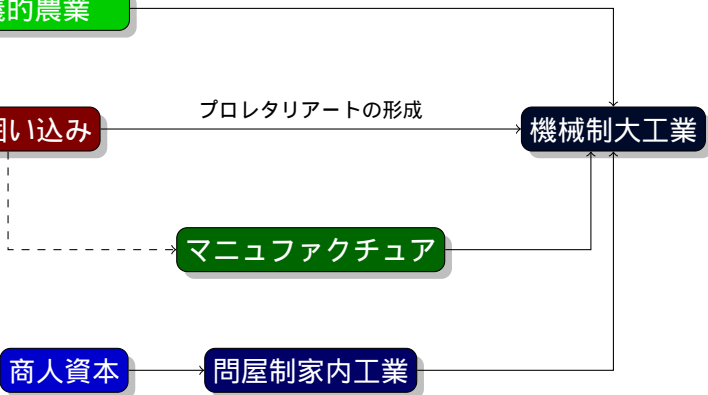
マニファクチュア

商人資本

問屋制家内工業

プロレタリアートの形成

機械制大工業



不連続性

- 1 羊毛工業から綿工業へという発展はない。

不連続性

- 1 羊毛工業から綿工業へという発展はない。
- 2 イギリス国内で、羊毛工業の衰退と、綿工業の勃興があった。

不連続性

- 1 羊毛工業から綿工業へという発展はない。
- 2 イギリス国内で、羊毛工業の衰退と、綿工業の勃興があった。
- 3 エンクロージャーで形成されたプロレタリアートが羊毛工業に吸収されたことはない（都市に流れ込んで雑業層を形成）。

不連続性

- 1 羊毛工業から綿工業へという発展はない。
- 2 イギリス国内で、羊毛工業の衰退と、綿工業の勃興があった。
- 3 エンクロージャーで形成されたプロレタリアートが羊毛工業に吸収されたことはない（都市に流れ込んで雑業層を形成）。
- 4 羊毛工業で機械制大工業のベースになる不熟練労働者が形成されたことはない。

不連続性

- 1 羊毛工業から綿工業へという発展はない。
- 2 イギリス国内で、羊毛工業の衰退と、綿工業の勃興があった。
- 3 エンクロージャーで形成されたプロレタリアートが羊毛工業に吸収されたことはない（都市に流れ込んで雑業層を形成）。
- 4 羊毛工業で機械制大工業のベースになる不熟練労働者が形成されたことはない。
- 5 羊毛工業の原料は基本的にイングランド内部で生産される。綿工業の原料はすべて輸入。

不連続性

- 1 羊毛工業から綿工業へという発展はない。
- 2 イギリス国内で、羊毛工業の衰退と、綿工業の勃興があった。
- 3 エンクロージャーで形成されたプロレタリアートが羊毛工業に吸収されたことはない（都市に流れ込んで雑業層を形成）。
- 4 羊毛工業で機械制大工業のベースになる不熟練労働者が形成されたことはない。
- 5 羊毛工業の原料は基本的にイングランド内部で生産される。綿工業の原料はすべて輸入。
- 6 綿工業は孤立した工場として立地。

不連続性

- 1 羊毛工業から綿工業へという発展はない。
- 2 イギリス国内で、羊毛工業の衰退と、綿工業の勃興があった。
- 3 エンクロージャーで形成されたプロレタリアートが羊毛工業に吸収されたことはない（都市に流れ込んで雑業層を形成）。
- 4 羊毛工業で機械制大工業のベースになる不熟練労働者が形成されたことはない。
- 5 羊毛工業の原料は基本的にイングランド内部で生産される。綿工業の原料はすべて輸入。
- 6 綿工業は孤立した工場として立地。
- 7 綿工業も同質な単純労働（婦人・児童労働）だけの世界ではない。

不連続性

- 1 羊毛工業から綿工業へという発展はない。
- 2 イギリス国内で、羊毛工業の衰退と、綿工業の勃興があった。
- 3 エンクロージャーで形成されたプロレタリアートが羊毛工業に吸収されたことはない（都市に流れ込んで雑業層を形成）。
- 4 羊毛工業で機械制大工業のベースになる不熟練労働者が形成されたことはない。
- 5 羊毛工業の原料は基本的にイングランド内部で生産される。綿工業の原料はすべて輸入。
- 6 綿工業は孤立した工場として立地。
- 7 綿工業も同質な単純労働（婦人・児童労働）だけの世界ではない。
- 8 重商主義段階：生成 → 自由主義段階：発展 という連続的關係にはない。

生成・発展説批判

重商主義

生成期の資本主義

商人資本としてのイギリス羊毛工業

生成・発展説批判

重商主義	生成期の資本主義	商人資本としてのイギリス羊毛工業
自由主義	成長期の資本主義	産業資本としてのイギリス綿工業

生成・発展説批判

重商主義	生成期の資本主義	商人資本としてのイギリス羊毛工業
自由主義	成長期の資本主義	産業資本としてのイギリス綿工業
帝国主義	爛熟期の資本主義	金融資本の諸相（独・英・米）

- 資本主義の起源を見直すことは、資本主義の将来を見直すことにつながる。

生成・発展説批判

重商主義	生成期の資本主義	商人資本としてのイギリス羊毛工業
自由主義	成長期の資本主義	産業資本としてのイギリス綿工業
帝国主義	爛熟期の資本主義	金融資本の諸相（独・英・米）

- 資本主義の起源を見直すことは、資本主義の将来を見直すことにつながる。
- 「起源はゆくえを照らす」

生成・発展説批判

重商主義	生成期の資本主義	商人資本としてのイギリス羊毛工業
自由主義	成長期の資本主義	産業資本としてのイギリス綿工業
帝国主義	爛熟期の資本主義	金融資本の諸相（独・英・米）

- 資本主義の起源を見直すことは、資本主義の将来を見直すことにつながる。
- 「起源はゆくえを照らす」
- 紆余曲折はあろうとも、資本主義から社会主義への過渡期にみえた20世紀の

生成・発展説批判

重商主義	生成期の資本主義	商人資本としてのイギリス羊毛工業
自由主義	成長期の資本主義	産業資本としてのイギリス綿工業
帝国主義	爛熟期の資本主義	金融資本の諸相（独・英・米）

- 資本主義の起源を見直すことは、資本主義の将来を見直すことにつながる。
- 「起源はゆくえを照らす」
- 紆余曲折はあろうとも、資本主義から社会主義への過渡期にみえた20世紀の
- どういう資本主義が、どういう社会主義に、どのように変わってゆくのか、はじめから考えなおすとき。

資本主義とは

1 マルクスの資本主義像：収斂説

資本主義とは

- 1 マルクスの資本主義像：収斂説
- 2 宇野弘蔵の純粹資本主義論：本来の姿は単一

資本主義とは

- 1 マルクスの資本主義像：収斂説
- 2 宇野弘蔵の純粹資本主義論：本来の姿は単一
- 3 純粹資本主義から離れる過程としての20世紀：戦争・「国家独占資本主義」・福祉国家...

資本主義とは

- 1 マルクスの資本主義像：収斂説
- 2 宇野弘蔵の純粹資本主義論：本来の姿は単一
- 3 純粹資本主義から離れる過程としての20世紀：戦争・「国家独占資本主義」・福祉国家...
- 4 しかし、グローバリズムの現実

資本主義とは

- 1 マルクスの資本主義像：収斂説
- 2 宇野弘蔵の純粹資本主義論：本来の姿は単一
- 3 純粹資本主義から離れる過程としての20世紀：戦争・「国家独占資本主義」・福祉国家...
- 4 しかし、グローバリズムの現実
- 5 単一起源説 → 多重起源説

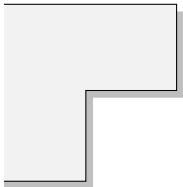
資本主義とは

- 1 マルクスの資本主義像：収斂説
- 2 宇野弘蔵の純粹資本主義論：本来の姿は単一
- 3 純粹資本主義から離れる過程としての20世紀：戦争・「国家独占資本主義」・福祉国家...
- 4 しかし、グローバリズムの現実
- 5 単一起源説 → 多重起源説
- 6 「資本主義の**起源**」だけではなく、

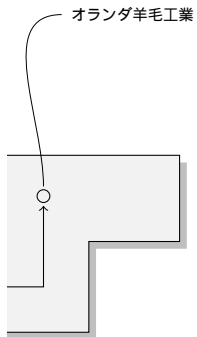
資本主義とは

- 1 マルクスの資本主義像：収斂説
- 2 宇野弘蔵の純粹資本主義論：本来の姿は単一
- 3 純粹資本主義から離れる過程としての20世紀：戦争・「国家独占資本主義」・福祉国家...
- 4 しかし、グローバリズムの現実
- 5 単一起源説 → 多重起源説
- 6 「資本主義の**起源**」だけではなく、
- 7 「資本主義の**本流**」のようなものを考えてみる。

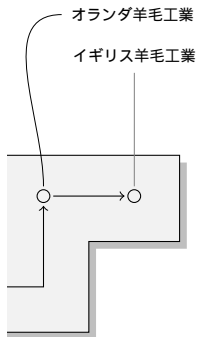
多重起源説



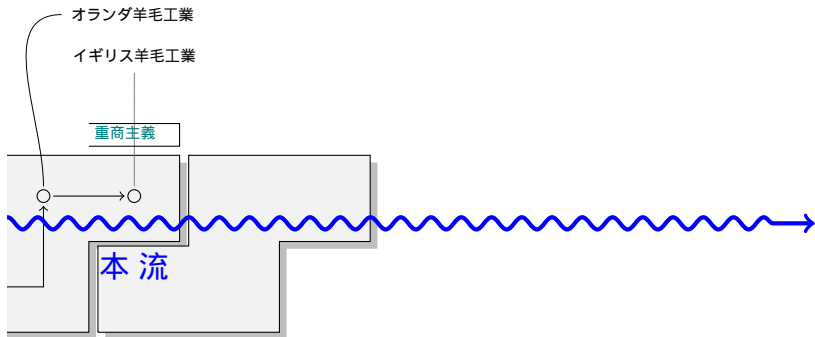
多重起源説



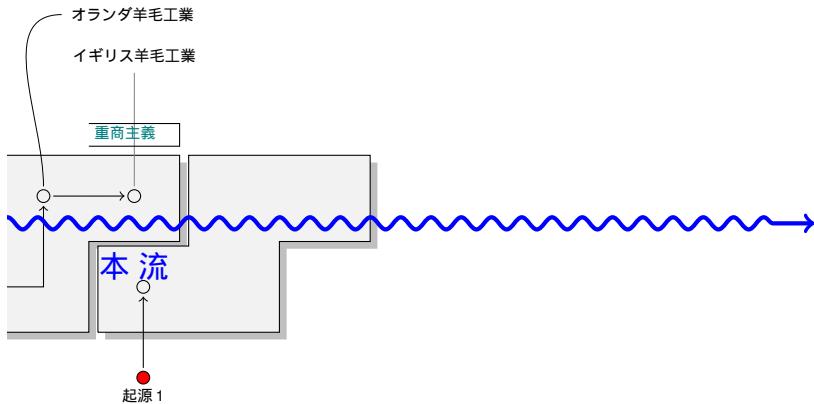
多重起源説



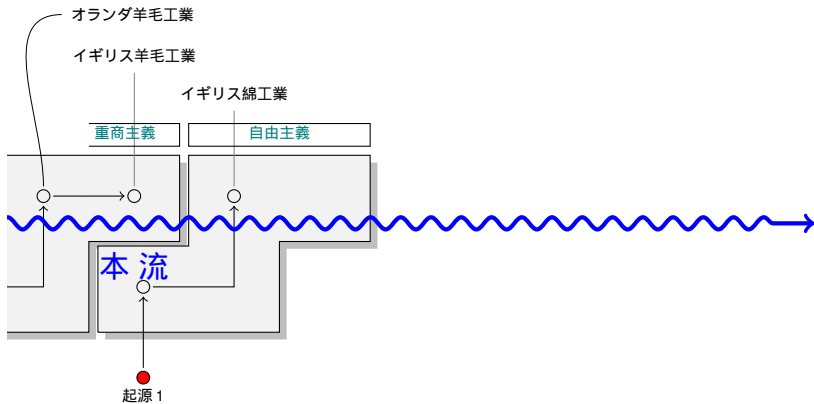
多重起源説



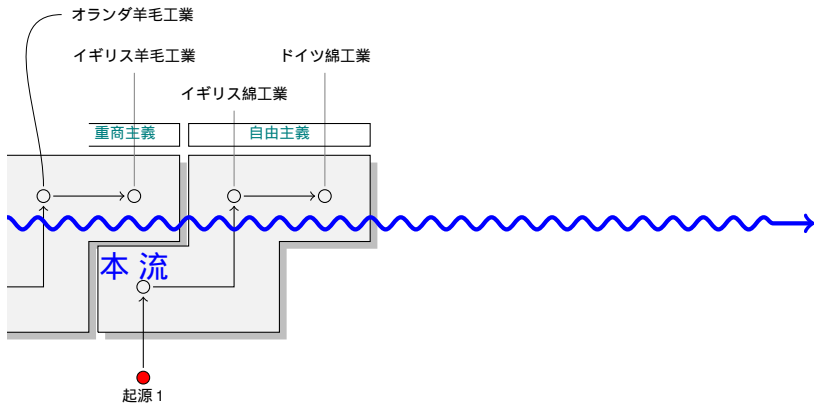
多重起源説



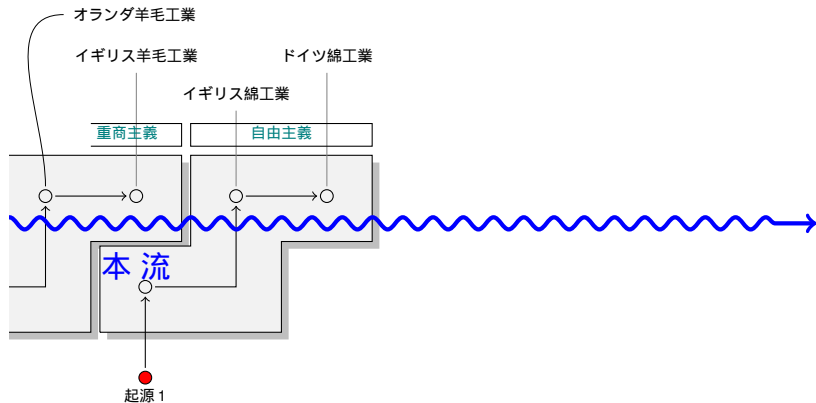
多重起源説



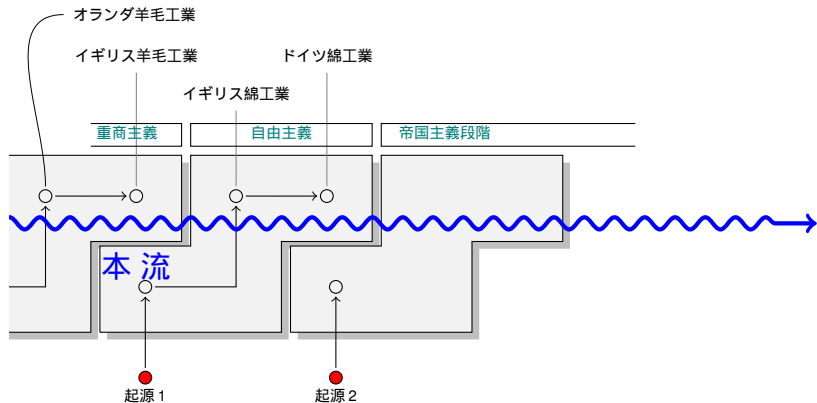
多重起源説



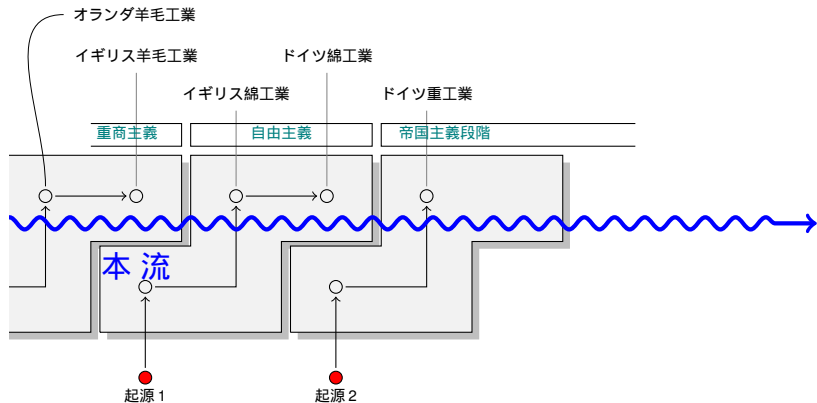
多重起源説



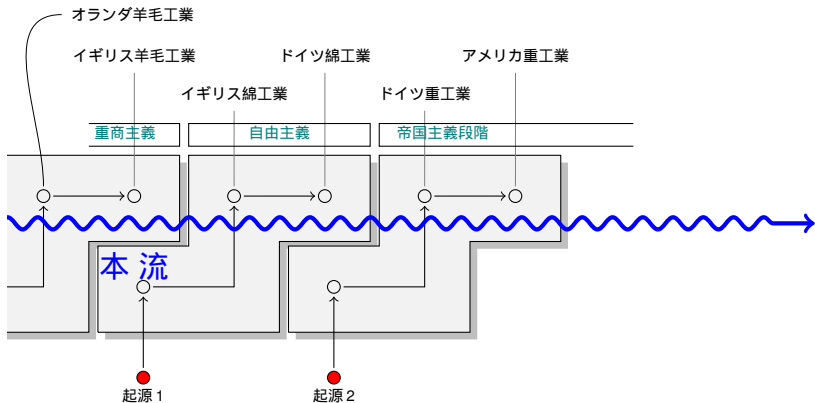
多重起源説



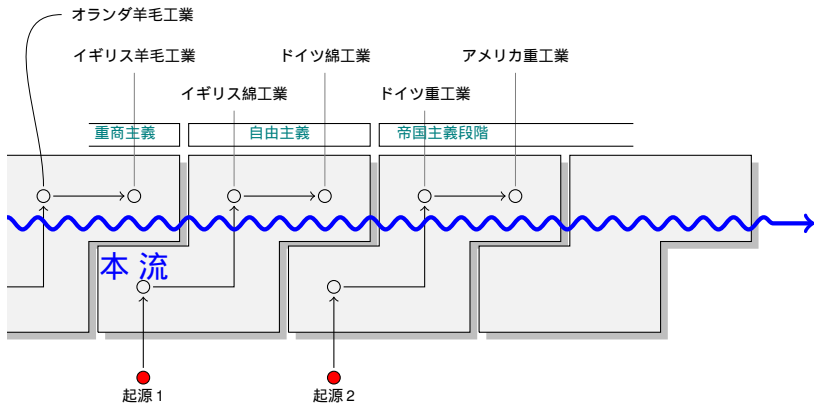
多重起源説



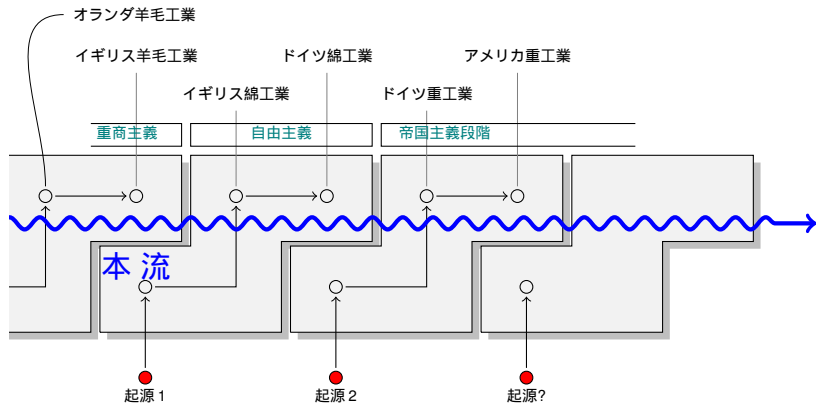
多重起源説



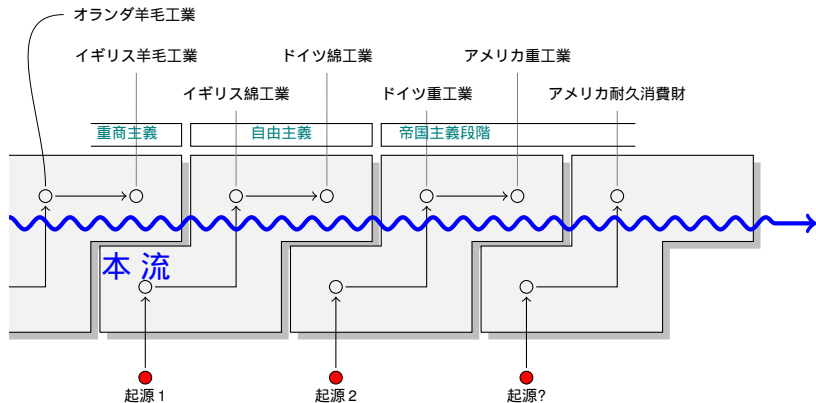
多重起源説



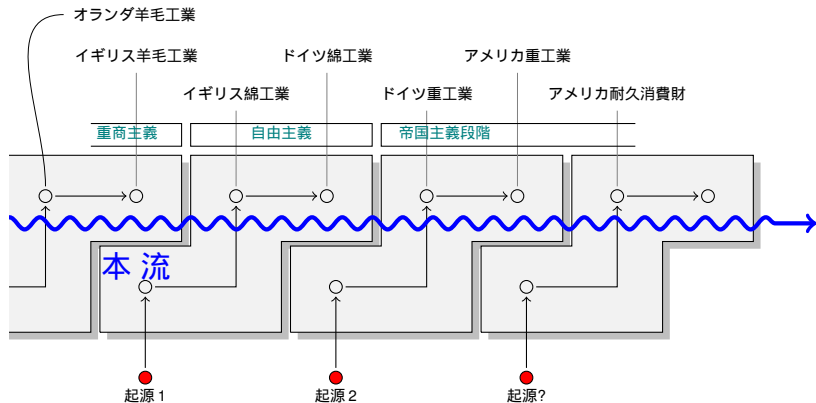
多重起源説



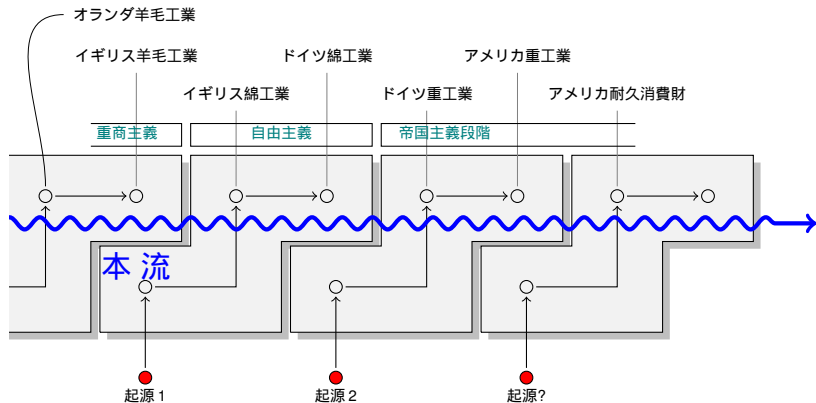
多重起源説



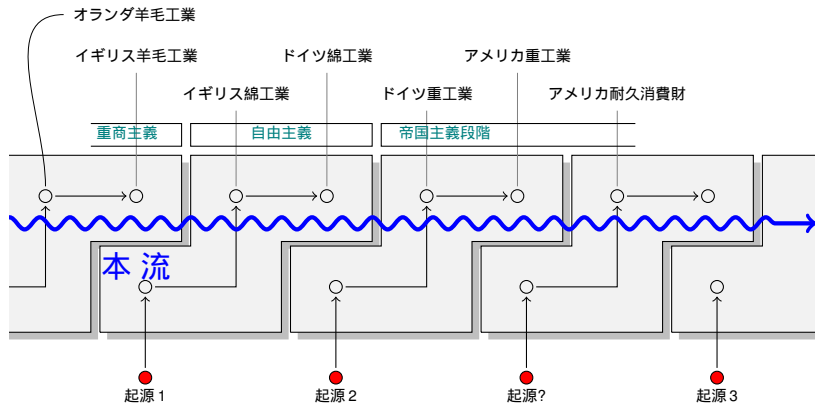
多重起源説



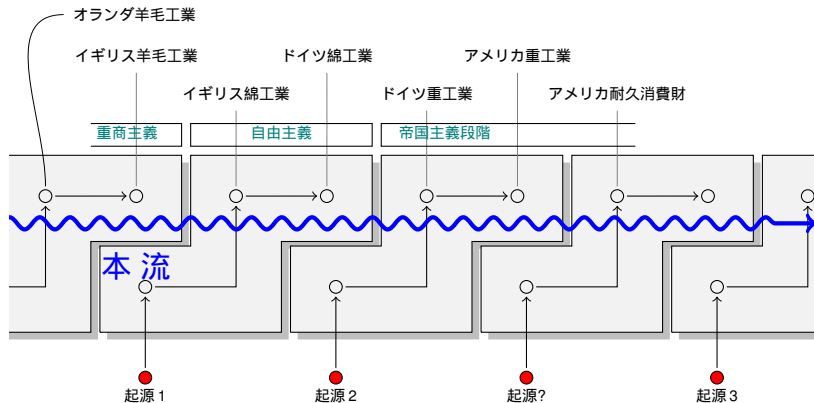
多重起源説



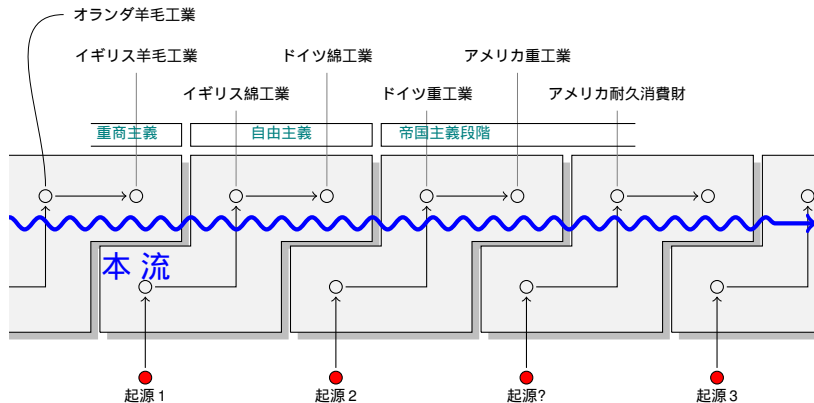
多重起源説



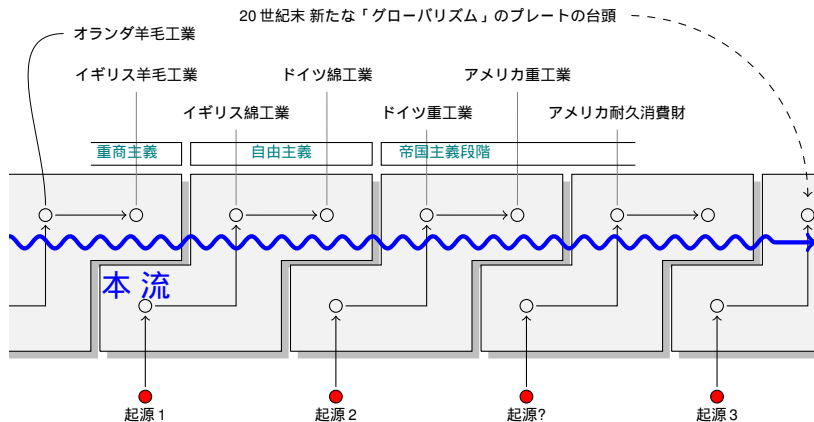
多重起源説



多重起源説



多重起源説



先進資本主義国が直面している難問

1 新たな資本主義化の波：起源3：グローバリズム

先進資本主義国が直面している難問

- 1 新たな資本主義化の波：起源3：グローバリズム
- 2 先行する成熟した資本主義は、新たな資本主義と合流し、大競争に突き進むのか

先進資本主義国が直面している難問

- 1 新たな資本主義化の波：起源3：グローバリズム
- 2 先行する成熟した資本主義は、新たな資本主義と合流し、大競争に突き進むのか
- 3 それとも資本主義の本流（「資本が軸心となる市場」）を渡って、別の道を進むのか

先進資本主義国が直面している難問

- 1 新たな資本主義化の波：起源3：グローバリズム
- 2 先行する成熟した資本主義は、新たな資本主義と合流し、大競争に突き進むのか
- 3 それとも資本主義の本流（「資本が軸心となる市場」）を渡って、別の道を進むのか
- 4 先進資本主義は、新たな難問に直面し、すべてを営利企業にゆだねるのか、迫られている。

先進資本主義国が直面している難問

- 1 新たな資本主義化の波：起源3：グローバリズム
- 2 先行する成熟した資本主義は、新たな資本主義と合流し、大競争に突き進むのか
- 3 それとも資本主義の本流（「資本が軸心となる市場」）を渡って、別の道を進むのか
- 4 先進資本主義は、新たな難問に直面し、すべてを営利企業にゆだねるのか、迫られている。

1

先進資本主義国が直面している難問

- 1 新たな資本主義化の波：起源3：グローバリズム
- 2 先行する成熟した資本主義は、新たな資本主義と合流し、大競争に突き進むのか
- 3 それとも資本主義の本流（「資本が軸心となる市場」）を渡って、別の道を進むのか
- 4 先進資本主義は、新たな難問に直面し、すべてを営利企業にゆだねるのか、迫られている。
 - 1
 - 2 資本主義的な雇用のかたちが維持できない：**雇用問題**

先進資本主義国が直面している難問

- 1 新たな資本主義化の波：起源3：グローバリズム
- 2 先行する成熟した資本主義は、新たな資本主義と合流し、大競争に突き進むのか
- 3 それとも資本主義の本流（「資本が軸心となる市場」）を渡って、別の道を進むのか
- 4 先進資本主義は、新たな難問に直面し、すべてを営利企業にゆだねるのか、迫られている。
 - 1
 - 2 資本主義的な雇用のかたちが維持できない：**雇用問題**
 - 3 成長の追求には自然環境の限界がある：**環境問題**

先進資本主義国が直面している難問

- 1 新たな資本主義化の波：起源3：グローバリズム
- 2 先行する成熟した資本主義は、新たな資本主義と合流し、大競争に突き進むのか
- 3 それとも資本主義の本流（「資本が軸心となる市場」）を渡って、別の道を進むのか
- 4 先進資本主義は、新たな難問に直面し、すべてを営利企業にゆだねるのか、迫られている。
 - 1
 - 2 資本主義的な雇用のかたちが維持できない：**雇用問題**
 - 3 成長の追求には自然環境の限界がある：**環境問題**
 - 4 知的活動の商品化：**所有問題**

先進資本主義国が直面している難問

- 1 新たな資本主義化の波：起源3：グローバリズム
- 2 先行する成熟した資本主義は、新たな資本主義と合流し、大競争に突き進むのか
- 3 それとも資本主義の本流（「資本が軸心となる市場」）を渡って、別の道を進むのか
- 4 先進資本主義は、新たな難問に直面し、すべてを営利企業にゆだねるのか、迫られている。
 - 1
 - 2 資本主義的な雇用のかたちが維持できない：**雇用問題**
 - 3 成長の追求には自然環境の限界がある：**環境問題**
 - 4 知的活動の商品化：**所有問題**

先進資本主義国が直面している難問

- 1 新たな資本主義化の波：起源3：グローバリズム
- 2 先行する成熟した資本主義は、新たな資本主義と合流し、大競争に突き進むのか
- 3 それとも資本主義の本流（「資本が軸心となる市場」）を渡って、別の道を進むのか
- 4 先進資本主義は、新たな難問に直面し、すべてを営利企業にゆだねるのか、迫られている。
 - 1
 - 2 資本主義的な雇用のかたちが維持できない：**雇用問題**
 - 3 成長の追求には自然環境の限界がある：**環境問題**
 - 4 知的活動の商品化：**所有問題**

3つの問題について、経済原論でふり返ってみる。

雇用問題

雇用問題

- 労働市場は、その背後に生活過程という開口部をかかえている。

雇用問題

- 労働市場は、その背後に生活過程という開口部をかかえている。
- これは、グローバリズムのもとで深刻化する先進諸国における雇用問題を考えるカギ。

雇用問題

- 労働市場は、その背後に生活過程という開口部をかかえている。
- これは、グローバリズムのもとで深刻化する先進諸国における雇用問題を考えるカギ。
- 新興諸国との競争は、さらなる生産力の上昇を先進諸国に迫る。

雇用問題

- 労働市場は、その背後に生活過程という開口部をかかえている。
- これは、グローバリズムのもとで深刻化する先進諸国における雇用問題を考えるカギ。
- 新興諸国との競争は、さらなる生産力の上昇を先進諸国に迫る。
- 生産力が高まれば、一定の資本量が吸収する労働量は相対的に減少する。

雇用問題

- 労働市場は、その背後に生活過程という開口部をかかえている。
- これは、グローバリズムのもとで深刻化する先進諸国における雇用問題を考えるカギ。
- 新興諸国との競争は、さらなる生産力の上昇を先進諸国に迫る。
- 生産力が高まれば、一定の資本量が吸収する労働量は相対的に減少する。
- 雇用を維持しようとするれば、生産力による減少を上まわるペースで生産規模を拡大する必要。

雇用問題

- 労働市場は、その背後に生活過程という開口部をかかえている。
- これは、グローバリズムのもとで深刻化する先進諸国における雇用問題を考えるカギ。
- 新興諸国との競争は、さらなる生産力の上昇を先進諸国に迫る。
- 生産力が高まれば、一定の資本量が吸収する労働量は相対的に減少する。
- 雇用を維持しようとするれば、生産力による減少を上まわるペースで生産規模を拡大する必要。
- しかし、自然環境の制約を考えてみても、同じ産業構造での拡大には限度。

雇用問題

- 労働市場は、その背後に生活過程という開口部をかかえている。
- これは、グローバリズムのもとで深刻化する先進諸国における雇用問題を考えるカギ。
- 新興諸国との競争は、さらなる生産力の上昇を先進諸国に迫る。
- 生産力が高まれば、一定の資本量が吸収する労働量は相対的に減少する。
- 雇用を維持しようとするれば、生産力による減少を上まわるペースで生産規模を拡大する必要。
- しかし、自然環境の制約を考えてみても、同じ産業構造での拡大には限度。
- 教育や文化の分野に資本の活動の場を創出し、直接的な対人サービスの商業化が不可避。

雇用問題

- 労働市場は、その背後に生活過程という開口部をかかえている。
- これは、グローバリズムのもとで深刻化する先進諸国における雇用問題を考えるカギ。
- 新興諸国との競争は、さらなる生産力の上昇を先進諸国に迫る。
- 生産力が高まれば、一定の資本量が吸収する労働量は相対的に減少する。
- 雇用を維持しようとするれば、生産力による減少を上まわるペースで生産規模を拡大する必要。
- しかし、自然環境の制約を考えてみても、同じ産業構造での拡大には限度。
- 教育や文化の分野に資本の活動の場を創出し、直接的な対人サービスの商業化が不可避。
- 効率化が目的ではない生活過程の隅々に、市場の原理による「合理化」を拡大。

雇用問題

- 労働市場は、その背後に生活過程という開口部をかかえている。
- これは、グローバリズムのもとで深刻化する先進諸国における雇用問題を考えるカギ。
- 新興諸国との競争は、さらなる生産力の上昇を先進諸国に迫る。
- 生産力が高まれば、一定の資本量が吸収する労働量は相対的に減少する。
- 雇用を維持しようとするれば、生産力による減少を上まわるペースで生産規模を拡大する必要。
- しかし、自然環境の制約を考えてみても、同じ産業構造での拡大には限度。
- 教育や文化の分野に資本の活動の場を創出し、直接的な対人サービスの商業化が不可避。
- 効率化が目的ではない生活過程の隅々に、市場の原理による「合理化」を拡大。
- 強力な労働の変容をせまる。

資本構成

定義 1

資本構成: $\mu = \frac{c}{v + m}$ 剩餘價值率: $m' = \frac{m}{v}$

資本構成

定義 1

$$\text{資本構成: } \mu = \frac{c}{v+m} \quad \text{剰余価値率: } m' = \frac{m}{v}$$

剰余価値率が m/v なら、 c/v が資本構成と考えたくなるが...

資本構成

定義 1

$$\text{資本構成: } \mu = \frac{c}{v+m} \quad \text{剰余価値率: } m' = \frac{m}{v}$$

剰余価値率が m/v なら、 c/v が資本構成と考えたくなるが...

$$\frac{c}{v} = \frac{c}{v+m} \times \frac{v+m}{v} = \mu \times (1 + m')$$

資本構成

定義 1

$$\text{資本構成: } \mu = \frac{c}{v+m} \quad \text{剰余価値率: } m' = \frac{m}{v}$$

剰余価値率が m/v なら、 c/v が資本構成と考えたくなるが...

$$\frac{c}{v} = \frac{c}{v+m} \times \frac{v+m}{v} = \mu \times (1 + m')$$

 ↑ ↓

資本構成

定義 1

資本構成: $\mu = \frac{c}{v+m}$ 剰余価値率: $m' = \frac{m}{v}$

剰余価値率が m/v なら、 c/v が資本構成と考えたくなるが...

$$\frac{c}{v} = \frac{c}{v+m} \times \frac{v+m}{v} = \mu \times (1 + m')$$

技術的条件

資本構成

定義 1

資本構成: $\mu = \frac{c}{v+m}$ 剰余価値率: $m' = \frac{m}{v}$

剰余価値率が m/v なら、 c/v が資本構成と考えたくなるが...

$$\frac{c}{v} = \frac{c}{v+m} \times \frac{v+m}{v} = \mu \times (1 + m')$$

技術的条件 社会的条件 (分配)

資本構成

定義 1

$$\text{資本構成: } \mu = \frac{c}{v+m} \quad \text{剰余価値率: } m' = \frac{m}{v}$$

剰余価値率が m/v なら、 c/v が資本構成と考えたくなるが...

$$\frac{c}{v} = \frac{c}{v+m} \times \frac{v+m}{v} = \mu \times (1+m')$$

技術的条件 社会的条件 (分配)

となり、この比率 c/v は実はスジがよくない。「技術的条件」と「社会的条件」の合成値だから)

労働の吸収

資本 $K = c + v$ がどれだけの労働時間 $T = v + m$ を吸収するか？

$$\begin{aligned}\frac{T}{K} &= \frac{v + m}{c + v} \\ &= \frac{1 + m'}{1 + \frac{c}{v}} \\ &= \frac{1 + m'}{\mu(1 + m') + 1} = \alpha\end{aligned}$$

$$T = \alpha K$$

吸収か反発か 蓄積のプロセス

■ $K \rightarrow K + \Delta K, \alpha \rightarrow \alpha + \Delta\alpha \Rightarrow T \rightarrow T + \Delta T$

吸収か反発か 蓄積のプロセス

- $K \rightarrow K + \Delta K, \alpha \rightarrow \alpha + \Delta\alpha \Rightarrow T \rightarrow T + \Delta T$



$$\begin{aligned} T + \Delta T &= (K + \Delta K)(\alpha + \Delta\alpha) \\ &= K\alpha + \Delta K\alpha + K\Delta\alpha + \Delta K\Delta\alpha \\ &\doteq K\alpha + \Delta K\alpha + K\Delta\alpha \end{aligned}$$

吸収か反発か 蓄積のプロセス

■ $K \rightarrow K + \Delta K, \alpha \rightarrow \alpha + \Delta\alpha \Rightarrow T \rightarrow T + \Delta T$

■

$$\begin{aligned} T + \Delta T &= (K + \Delta K)(\alpha + \Delta\alpha) \\ &= K\alpha + \Delta K\alpha + K\Delta\alpha + \Delta K\Delta\alpha \\ &\doteq K\alpha + \Delta K\alpha + K\Delta\alpha \end{aligned}$$

■ $\Delta T \doteq \Delta K\alpha + K\Delta\alpha$

吸収か反発か 蓄積のプロセス

- $K \rightarrow K + \Delta K, \alpha \rightarrow \alpha + \Delta\alpha \Rightarrow T \rightarrow T + \Delta T$

-

$$\begin{aligned} T + \Delta T &= (K + \Delta K)(\alpha + \Delta\alpha) \\ &= K\alpha + \Delta K\alpha + K\Delta\alpha + \Delta K\Delta\alpha \\ &\doteq K\alpha + \Delta K\alpha + K\Delta\alpha \end{aligned}$$

- $\Delta T \doteq \Delta K\alpha + K\Delta\alpha$

- $\frac{\Delta T}{T} \doteq \frac{\Delta K}{K} + \frac{\Delta\alpha}{\alpha}$

吸収か反発か 蓄積のプロセス

- $K \rightarrow K + \Delta K, \alpha \rightarrow \alpha + \Delta\alpha \Rightarrow T \rightarrow T + \Delta T$

-

$$\begin{aligned} T + \Delta T &= (K + \Delta K)(\alpha + \Delta\alpha) \\ &= K\alpha + \Delta K\alpha + K\Delta\alpha + \Delta K\Delta\alpha \\ &\doteq K\alpha + \Delta K\alpha + K\Delta\alpha \end{aligned}$$

- $\Delta T \doteq \Delta K\alpha + K\Delta\alpha$

- $\frac{\Delta T}{T} \doteq \frac{\Delta K}{K} + \frac{\Delta\alpha}{\alpha}$

- $\dot{T} \doteq \dot{K} + \dot{\alpha}$

吸収か反発か 蓄積のプロセス

- $K \rightarrow K + \Delta K, \alpha \rightarrow \alpha + \Delta\alpha \Rightarrow T \rightarrow T + \Delta T$



$$\begin{aligned}T + \Delta T &= (K + \Delta K)(\alpha + \Delta\alpha) \\ &= K\alpha + \Delta K\alpha + K\Delta\alpha + \Delta K\Delta\alpha \\ &\doteq K\alpha + \Delta K\alpha + K\Delta\alpha\end{aligned}$$

- $\Delta T \doteq \Delta K\alpha + K\Delta\alpha$

- $\frac{\Delta T}{T} \doteq \frac{\Delta K}{K} + \frac{\Delta\alpha}{\alpha}$

- $\dot{T} \doteq \dot{K} + \dot{\alpha}$

- たとえば、「技術が高度化して α が5%低下しても、資本規模 K が8%増大すれば、雇用量 T は約3%増大する。」ということ.....

吸収か反発か

極限の世界

- 資本主義的蓄積は一般に $\rightarrow \mu^{(\nearrow)} =$ 労働反発 の傾向をもつが、
- これは $m^{(\nearrow)}$ 労働吸収 \rightarrow 相殺できるか？
- ふうつうに考えれば.....
- 機械化が進めば、その分同時に、生産力も高まって、
相対的剰余価値の生産が進み、剰余価値率も高まるから、相殺でき
そう。でも.....

吸収か反発か

極限の世界

- 資本主義的蓄積は一般に $\rightarrow \mu^{(\nearrow)} =$ 労働反発 の傾向をもつが、
- これは $m'^{(\nearrow)}$ 労働吸収 \rightarrow 相殺できるか？
- ふつうに考えれば.....
- 機械化が進めば、その分同時に、生産力も高まって、
相対的剰余価値の生産が進み、剰余価値率も高まるから、相殺でき
そう。でも.....

- $$\alpha = \frac{1}{\mu + \frac{1}{1 + m'}}$$

吸収か反発か

極限の世界

- 資本主義的蓄積は一般に $\rightarrow \mu^{(\nearrow)} =$ 労働反発 の傾向をもつが、
- これは $m^{(\nearrow)}$ 労働吸収 \rightarrow 相殺できるか？
- ふつうに考えれば.....
- 機械化が進めば、その分同時に、生産力も高まって、
相対的剰余価値の生産が進み、剰余価値率も高まるから、相殺できそう。でも.....

- $$\alpha = \frac{1}{\mu + \frac{1}{1 + m'}}$$

- $$\lim_{\mu, m' \rightarrow \infty} \alpha = 0$$

吸収か反発か

極限の世界

- 資本主義的蓄積は一般に $\rightarrow \mu^{(\nearrow)} =$ 労働反発 の傾向をもつが、
- これは $m^{(\nearrow)}$ 労働吸収 \rightarrow 相殺できるか？
- ふつうに考えれば.....
- 機械化が進めば、その分同時に、生産力も高まって、
相対的剰余価値の生産が進み、剰余価値率も高まるから、相殺でき
そう。でも.....

- $$\alpha = \frac{1}{\mu + \frac{1}{1+m'}}$$

- $$\lim_{\mu, m' \rightarrow \infty} \alpha = 0$$

- これってどういう状況だろうか？

吸収か反発か

極限の世界

- 資本主義的蓄積は一般に $\rightarrow \mu^{(\nearrow)} =$ 労働反発 の傾向をもつが、
- これは $m^{(\nearrow)}$ 労働吸収 \rightarrow 相殺できるか？
- ふつうに考えれば.....
- 機械化が進めば、その分同時に、生産力も高まって、
相対的剰余価値の生産が進み、剰余価値率も高まるから、相殺でき
そう。でも.....

- $$\alpha = \frac{1}{\mu + \frac{1}{1+m'}}$$

- $$\lim_{\mu, m' \rightarrow \infty} \alpha = 0$$

- これってどういう状況だろうか？

- の世界でしょう。

吸収か反発か

極限の世界

- 資本主義的蓄積は一般に $\rightarrow \mu^{(\nearrow)} =$ 労働反発 の傾向をもつが、
- これは $m^{(\nearrow)}$ 労働吸収 \rightarrow 相殺できるか？
- ふつうに考えれば.....
- 機械化が進めば、その分同時に、生産力も高まって、
相対的剰余価値の生産が進み、剰余価値率も高まるから、相殺でき
そう。でも.....

- $$\alpha = \frac{1}{\mu + \frac{1}{1+m'}}$$

- $$\lim_{\mu, m' \rightarrow \infty} \alpha = 0$$

- これってどういう状況だろうか？

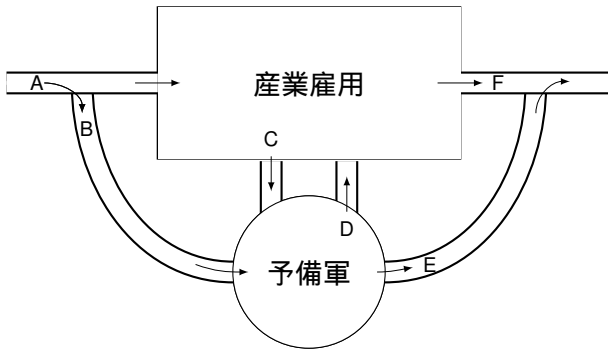
- の世界でしょう。

吸収か反発か

極限の世界

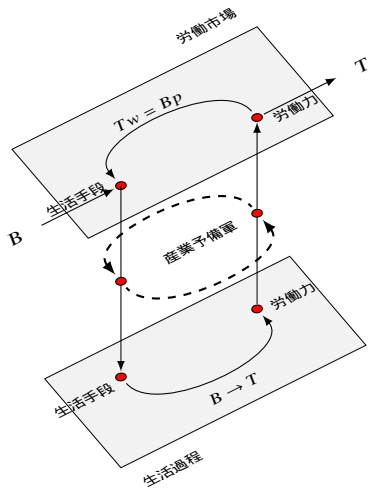
- 資本主義的蓄積は一般に $\rightarrow \mu^{(\nearrow)} =$ 労働反発 の傾向をもつが、
- これは $m^{(\nearrow)}$ 労働吸収 \rightarrow 相殺できるか？
- ふつうに考えれば.....
- 機械化が進めば、その分同時に、生産力も高まって、
相対的剰余価値の生産が進み、剰余価値率も高まるから、相殺できそう。でも.....
- $$\alpha = \frac{1}{\mu + \frac{1}{1+m'}}$$
- $$\lim_{\mu, m' \rightarrow \infty} \alpha = 0$$
- これってどういう状況だろうか？
- 完全オートメーションの世界でしょう。

産業予備軍のいる市場



- | | | | |
|---|-------------|---|------------|
| A | 新しく労働者になるもの | D | 再び雇用されるもの |
| B | 雇用先のないもの | E | 失業の後引退するもの |
| C | 解雇されたもの | F | 引退するもの |

労働市場と生活過程



労働力の「再生産」？

- 資本主義のもとで単純労働化が一方向的に進むとはいえない。

労働力の「再生産」？

- 資本主義のもとで単純労働化が一方向的に進むとはいえない。
- スキルの性質が変わる。

労働力の「再生産」？

- 資本主義のもとで単純労働化が一方的に進むとはいえない。
- スキルの性質が変わる。
- スキルを形成する「労働」

労働力の「再生産」？

- 資本主義のもとで単純労働化が一方向的に進むとはいえない。
- スキルの性質が変わる。
- スキルを形成する「労働」
- 広い意味で、労働力を維持・形成するための労働の存在

労働力の「再生産」？

- 資本主義のもとで単純労働化が一方向的に進むとはいえない。
- スキルの性質が変わる。
- スキルを形成する「労働」
- 広い意味で、労働力を維持・形成するための労働の存在
- 労働力に「生産」「再生産」という概念をもちこむことの盲点

労働力の「再生産」？

- 資本主義のもとで単純労働化が一方的に進むとはいえない。
- スキルの性質が変わる。
- スキルを形成する「労働」
- 広い意味で、労働力を維持・形成するための労働の存在
- 労働力に「生産」「再生産」という概念をもちこむことの盲点
- 生活物資を生産するのに必要な労働時間 bt が、労働力商品の価値を決定するのか。

労働力の「再生産」？

- 資本主義のもとで単純労働化が一方向的に進むとはいえない。
- スキルの性質が変わる。
- スキルを形成する「労働」
- 広い意味で、労働力を維持・形成するための労働の存在
- 労働力に「生産」「再生産」という概念をもちこむことの盲点
- 生活物資を生産するのに必要な労働時間 b_t が、労働力商品の価値を決定するのか。
- 労働の生産物の価値決定 $A_{t+l} = t$ と、労働力商品の価値決定 $b_{t+0} = t_L$ の違い

労働力の「再生産」？

- 資本主義のもとで単純労働化が一方向的に進むとはいえない。
- スキルの性質が変わる。
- スキルを形成する「労働」
- 広い意味で、労働力を維持・形成するための労働の存在
- 労働力に「生産」「再生産」という概念をもちこむことの盲点
- 生活物資を生産するのに必要な労働時間 bt が、労働力商品の価値を決定するのか。
- 労働の生産物の価値決定 $At + l = t$ と、労働力商品の価値決定 $bt + 0 = t_L$ の違い
- 労働を「生産」する自己労働の欠落

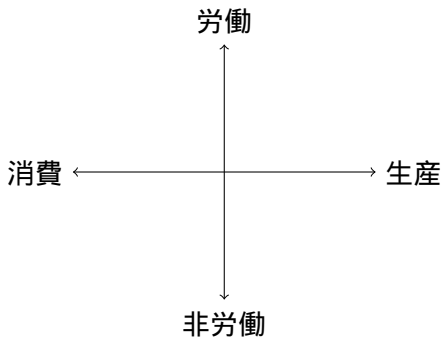
労働力の「再生産」？

- 資本主義のもとで単純労働化が一方向的に進むとはいえない。
- スキルの性質が変わる。
- スキルを形成する「労働」
- 広い意味で、労働力を維持・形成するための労働の存在
- 労働力に「生産」「再生産」という概念をもちこむことの盲点
- 生活物資を生産するのに必要な労働時間 bt が、労働力商品の価値を決定するのか。
- 労働の生産物の価値決定 $At + l = t$ と、労働力商品の価値決定 $bt + 0 = t_L$ の違い
- 労働を「生産」する自己労働の欠落
- さらには社会的な生活過程のなかでおこなわれるさまざまなタイプの労働の存在を無視

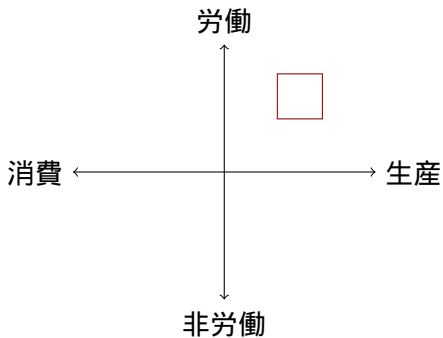
労働と生産

消費 ←————→ 生産

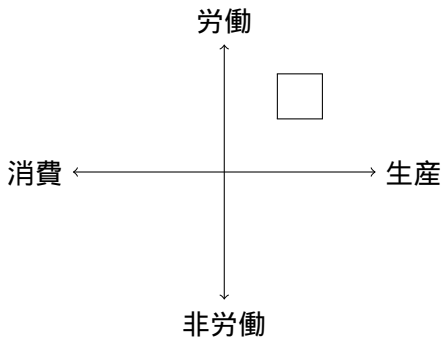
労働と生産



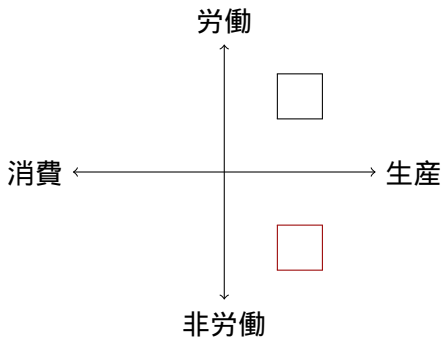
労働と生産



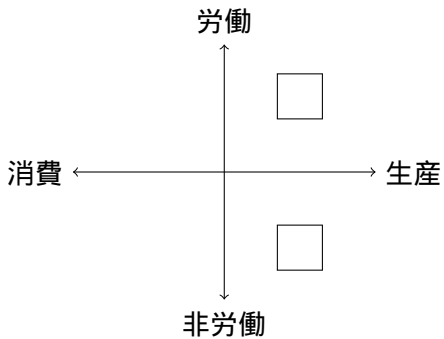
労働と生産



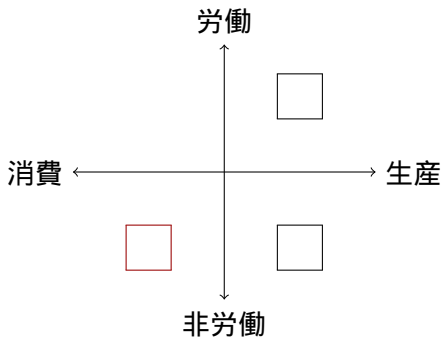
労働と生産



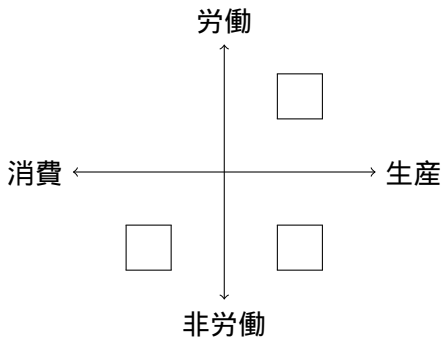
労働と生産



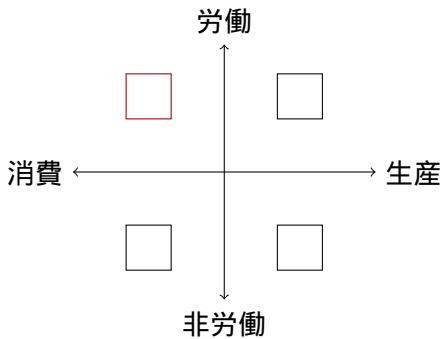
労働と生産



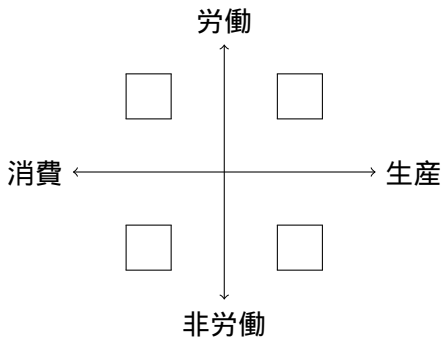
労働と生産



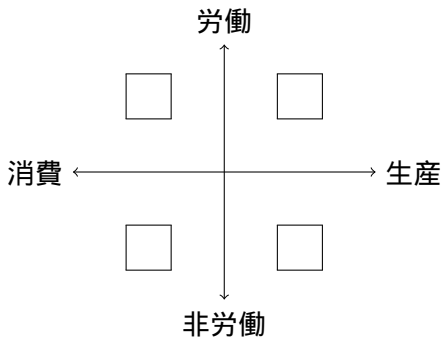
労働と生産



労働と生産

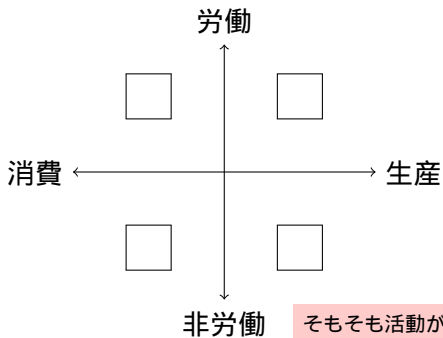


労働と生産



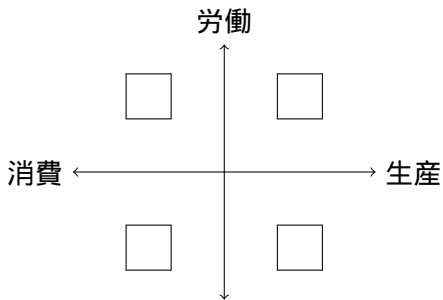
ただし、この図の「非労働」はダブルミーニングになってしまっているので注意。

労働と生産



ただし、この図の「非労働」はダブルミーニングになってしまっているので注意。

労働と生産



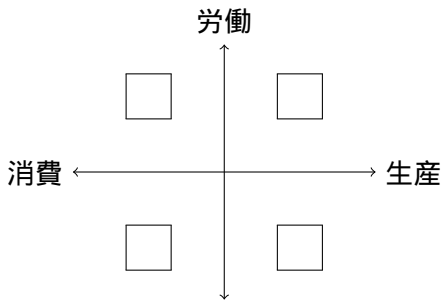
活動はあるが労働ではないという「非」

非労働

そもそも活動がないという「非」

ただし、この図の「非労働」はダブルミーニングになってしまっているので注意。

労働と生産



活動はあるが労働ではないという「非」

非労働

そもそも活動がないという「非」

ただし、この図の「非労働」はダブルミーニングになってしまっているので注意。

資本主義とは何か

二段構えで定義する必要がある。

定義 2

- 1 資本主義的生産様式 = **資本** が多数の労働力を購入して **協業** を組織し、利潤追求をおこなう生産様式。

資本主義とは何か

二段構えで定義する必要がある。

定義 2

- 1 資本主義的生産様式 = **資本** が多数の労働力を購入して **協業** を組織し、利潤追求をおこなう生産様式。

資本主義とは何か

二段構えで定義する必要がある。

定義 2

- 1 資本主義的生産様式 = **資本** が多数の労働力を購入して **協業** を組織し、利潤追求をおこなう生産様式。大まかにいえば、
 - 1 営利企業 (= 資本 : 第 1 部「流通論」): 資本主義の本流

資本主義とは何か

二段構えで定義する必要がある。

定義 2

- 1 資本主義的生産様式 = **資本** が多数の労働力を購入して **協業** を組織し、利潤追求をおこなう生産様式。大まかにいえば、
 - 1 営利企業 (= 資本 : 第 1 部「流通論」): 資本主義の本流
 - 2 協業 (大量生産のための労働組織): 資本主義の起源

資本主義とは何か

二段構えで定義する必要がある。

定義 2

- 1 資本主義的生産様式 = **資本** が多数の労働力を購入して **協業** を組織し、利潤追求をおこなう生産様式。大まかにいえば、
 - 1 営利企業 (= 資本 : 第 1 部「流通論」): 資本主義の本流
 - 2 協業 (大量生産のための労働組織): 資本主義の起源

資本主義とは何か

二段構えで定義する必要がある。

定義 2

- 1 資本主義的生産様式 = **資本** が多数の労働力を購入して **協業** を組織し、利潤追求をおこなう生産様式。大まかにいえば、
 - 1 営利企業 (= 資本 : 第 1 部「流通論」): 資本主義の本流
 - 2 協業 (大量生産のための労働組織): 資本主義の起源
- 2 資本主義経済 (社会) = 「社会的再生産」が資本主義的生産様式によって組織されている経済 (社会)

資本主義とは何か

二段構えで定義する必要がある。

定義 2

- 1 資本主義的生産様式 = **資本** が多数の労働力を購入して **協業** を組織し、利潤追求をおこなう生産様式。大まかにいえば、
 - 1 営利企業 (= 資本 : 第 1 部「流通論」): 資本主義の本流
 - 2 協業 (大量生産のための労働組織): 資本主義の起源
- 2 資本主義経済 (社会) = 「社会的再生産」が資本主義的生産様式によって組織されている経済 (社会)

資本主義とは何か

二段構えで定義する必要がある。

定義 2

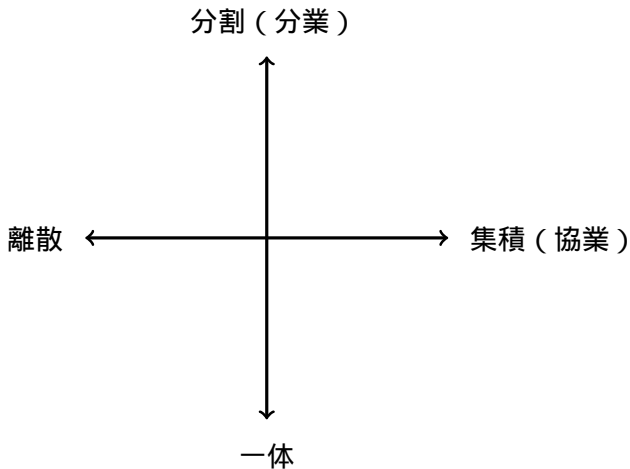
- 1 資本主義的生産様式 = **資本** が多数の労働力を購入して **協業** を組織し、利潤追求をおこなう生産様式。大まかにいえば、
 - 1 営利企業 (= 資本 : 第 1 部「流通論」): 資本主義の本流
 - 2 協業 (大量生産のための労働組織): 資本主義の起源
- 2 資本主義経済 (社会) = 「社会的再生産」が資本主義的生産様式によって組織されている経済 (社会)

資本主義と一般的にいう場合は、「資本主義経済」のこと。

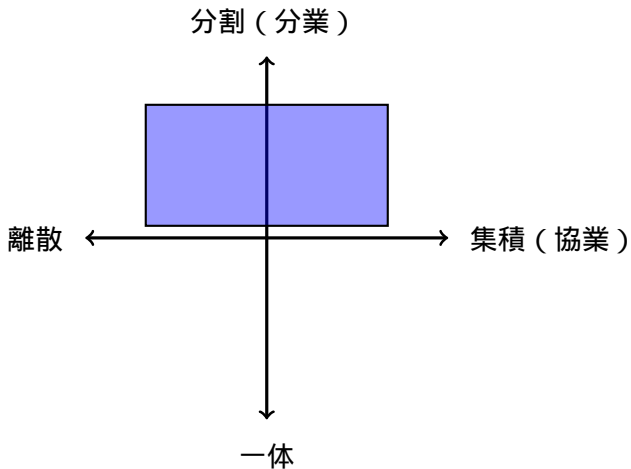
「協業 + 分業」と資本主義 (p.124)

離散 ←————→ 集積 (協業)

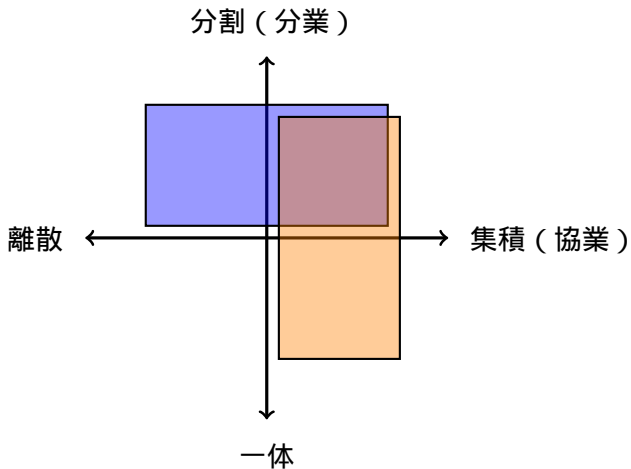
「協業 + 分業」と資本主義 (p.124)



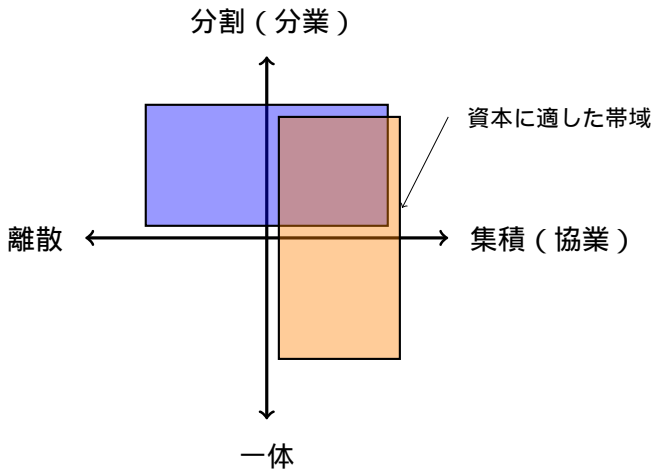
「協業 + 分業」と資本主義 (p.124)



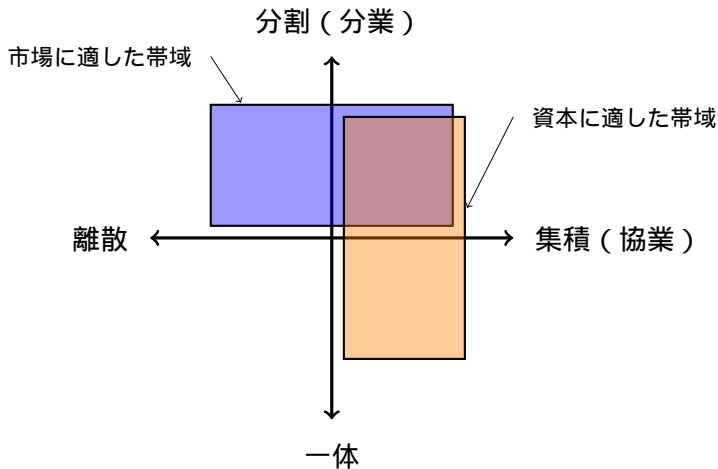
「協業 + 分業」と資本主義 (p.124)



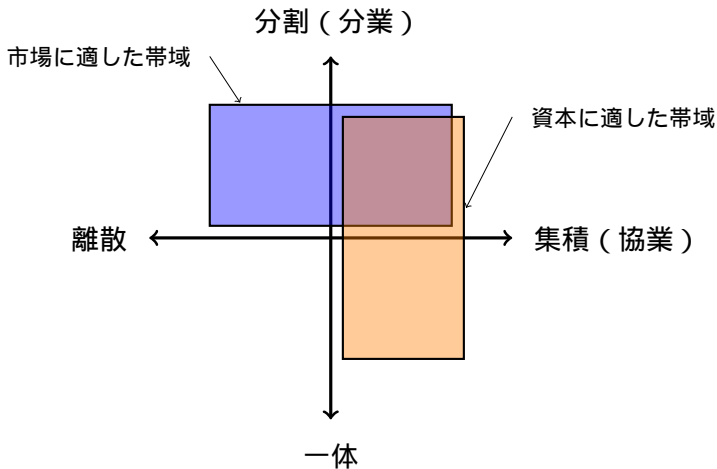
「協業 + 分業」と資本主義 (p.124)



「協業 + 分業」と資本主義 (p.124)



「協業 + 分業」と資本主義 (p.124)



資本主義的労働組織の二重性 (p.126)

表II.1.1 「労働組織の組成」

資本主義的労働組織の二重性 (p.126)

表II.1.1 「労働組織の組成」

- 「工場制」 factory system と「大工業」 große Industrie は、ともに「協業」 cooperation とほぼ同じ意味。

資本主義的労働組織の二重性 (p.126)

表II.1.1 「労働組織の組成」

- 「工場制」 factory system と「大工業」 große Industrie は、ともに「協業」 cooperation とほぼ同じ意味。
- **資本主義的労働組織に共通する基盤は、集団力を基礎にした大規模生産。**

資本主義的労働組織の二重性 (p.126)

表II.1.1 「労働組織の組成」

- 「工場制」 factory system と「大工業」 große Industrie は、ともに「協業」 cooperation とほぼ同じ意味。
- 資本主義的労働組織に共通する基盤は、集団力を基礎にした大規模生産。
- **それは、「マニユファクチュア」(「工場制手工業」と同義)と機械制大工業という二つの方向に分岐して現れる。**

資本主義的労働組織の二重性 (p.126)

表II.1.1 「労働組織の組成」

- 「工場制」factory system と「大工業」große Industrie は、ともに「協業」cooperation とほぼ同じ意味。
- 資本主義的労働組織に共通する基盤は、集団力を基礎にした大規模生産。
- それは、「マニュファクチュア」(「工場制手工業」と同義)と機械制大工業という二つの方向に分岐して現れる。

資本主義的労働組織の二重性 (p.126)

表II.1.1 「労働組織の組成」

- 「工場制」factory system と「大工業」große Industrie は、ともに「協業」cooperation とほぼ同じ意味。
- 資本主義的労働組織に共通する基盤は、集団力を基礎にした大規模生産。
- それは、「マニュファクチュア」(「工場制手工業」と同義)と機械制大工業という二つの方向に分岐して現れる。

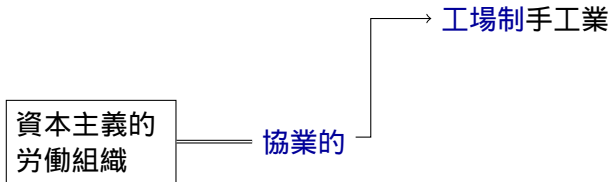
資本主義的
労働組織

協業的

資本主義的労働組織の二重性 (p.126)

表II.1.1 「労働組織の組成」

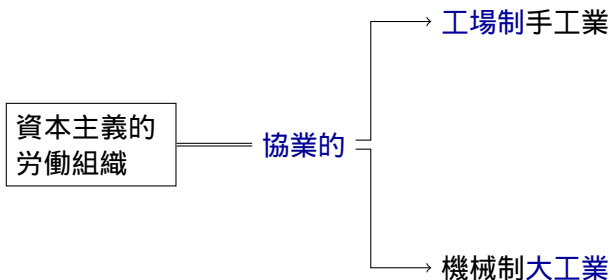
- 「工場制」factory system と「大工業」große Industrie は、ともに「協業」cooperation とほぼ同じ意味。
- 資本主義的労働組織に共通する基盤は、集団力を基礎にした大規模生産。
- それは、「マニュファクチュア」(「工場制手工業」と同義)と機械制大工業という二つの方向に分岐して現れる。



資本主義的労働組織の二重性 (p.126)

表II.1.1 「労働組織の組成」

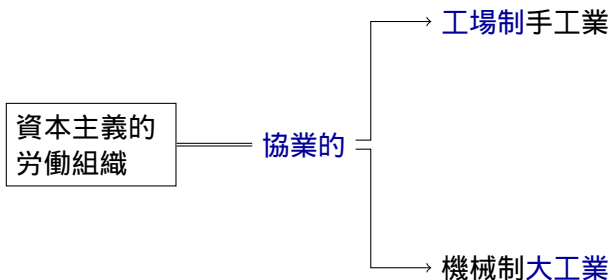
- 「工場制」factory system と「大工業」große Industrie は、ともに「協業」cooperation とほぼ同じ意味。
- 資本主義的労働組織に共通する基盤は、集団力を基礎にした大規模生産。
- それは、「マニユファクチュア」(「工場制手工業」と同義)と機械制大工業という二つの方向に分岐して現れる。



資本主義的労働組織の二重性 (p.126)

表II.1.1 「労働組織の組成」

- 「工場制」factory system と「大工業」große Industrie は、ともに「協業」cooperation とほぼ同じ意味。
- 資本主義的労働組織に共通する基盤は、集団力を基礎にした大規模生産。
- それは、「マニュファクチュア」(「工場制手工業」と同義)と機械制大工業という二つの方向に分岐して現れる。



マニュファクチュア

マニュファクチュア型は過去の遺物ではない。

- 1 近代的マニュファクチュア：大量生産された素材が最終消費にむかう川下

マニュファクチュア

マニュファクチュア型は過去の遺物ではない。

- 1 近代的マニュファクチュア：大量生産された素材が最終消費にむかう川下
- 2 社会的な生活過程に営利企業が浸透する方式

マニュファクチュア

マニュファクチュア型は過去の遺物ではない。

- 1 近代的マニュファクチュア：大量生産された素材が最終消費にむかう川下
- 2 社会的な生活過程に営利企業が浸透する方式

マニュファクチュア

マニュファクチュア型は過去の遺物ではない。

- 1 近代的マニュファクチュア：大量生産された素材が最終消費にむかう川下
- 2 社会的な生活過程に営利企業が浸透する方式

■ 分業 = スミスの効果 ではなくて、

マニュファクチュア

マニュファクチュア型は過去の遺物ではない。

- 1 近代的マニュファクチュア：大量生産された素材が最終消費にむかう川下
 - 2 社会的な生活過程に営利企業が浸透する方式
- 分業 = スミスの効果 ではなくて、
 - **分業 = スミスの効果 + パベッジの効果と考えると、**

マニュファクチュア

マニュファクチュア型は過去の遺物ではない。

- 1 近代的マニュファクチュア：大量生産された素材が最終消費にむかう川下
- 2 社会的な生活過程に営利企業が浸透する方式

- 分業 = スミスの効果 ではなくて、
- 分業 = スミスの効果 + パベッジの効果 と考えないと、
- **現代的展開が見えなくなる。**

マニュファクチュア

マニュファクチュア型は過去の遺物ではない。

- 1 近代的マニュファクチュア：大量生産された素材が最終消費にむかう川下
- 2 社会的な生活過程に営利企業が浸透する方式

- 分業 = スミスの効果 ではなくて、
- 分業 = スミスの効果 + パベッジの効果 と考えないと、
- 現代的展開が見えなくなる。
- **パベッジの効果：分断と規格化**

マニュファクチュア

マニュファクチュア型は過去の遺物ではない。

- 1 近代的マニュファクチュア：大量生産された素材が最終消費にむかう川下
- 2 社会的な生活過程に営利企業が浸透する方式

- 分業 = スミスの効果 ではなくて、
- 分業 = スミスの効果 + パベッジの効果 と考えないと、
- 現代的展開が見えなくなる。
- パベッジの効果：分断と規格化
- **遺物ではない例：医療・教育・メディア**

マニファクチュア

マニファクチュア型は過去の遺物ではない。

- 1 近代的マニファクチュア：大量生産された素材が最終消費にむかう川下
- 2 社会的な生活過程に営利企業が浸透する方式

- 分業 = スミスの効果 ではなくて、
- 分業 = スミスの効果 + パベッジの効果 と考えないと、
- 現代的展開が見えなくなる。
- パベッジの効果：分断と規格化
- 遺物ではない例：医療・教育・メディア
- 「企業がアウトソーシングをおこなったり、補助作業への派遣社員導入で正社員を削減したりする場合」

マニファクチュア

マニファクチュア型は過去の遺物ではない。

- 1 近代的マニファクチュア：大量生産された素材が最終消費にむかう川下
- 2 社会的な生活過程に営利企業が浸透する方式

- 分業 = スミスの効果 ではなくて、
- 分業 = スミスの効果 + パベッジの効果 と考えないと、
- 現代的展開が見えなくなる。
- パベッジの効果：分断と規格化
- 遺物ではない例：医療・教育・メディア
- 「企業がアウトソーシングをおこなったり、補助作業への派遣社員導入で正社員を削減したりする場合」
- **量化するまえに「熟練」スキルの構造を原理的に分析する必要**

マニファクチュア

マニファクチュア型は過去の遺物ではない。

- 1 近代的マニファクチュア：大量生産された素材が最終消費にむかう川下
- 2 社会的な生活過程に営利企業が浸透する方式

- 分業 = スミスの効果 ではなくて、
- 分業 = スミスの効果 + パベッジ的效果 と考えないと、
- 現代的展開が見えなくなる。
- パベッジ的效果：分断と規格化
- 遺物ではない例：医療・教育・メディア
- 「企業がアウトソーシングをおこなったり、補助作業への派遣社員導入で正社員を削減したりする場合」
- 量化するまえに「熟練」スキルの構造を原理的に分析する必要
- 「労働とは何か」という基本問題にゆきつく。

マニファクチュア

マニファクチュア型は過去の遺物ではない。

- 1 近代的マニファクチュア：大量生産された素材が最終消費にむかう川下
- 2 社会的な生活過程に営利企業が浸透する方式

- 分業 = スミスの効果 ではなくて、
- 分業 = スミスの効果 + パベッジ的效果 と考えないと、
- 現代的展開が見えなくなる。
- パベッジ的效果：分断と規格化
- 遺物ではない例：医療・教育・メディア
- 「企業がアウトソーシングをおこなったり、補助作業への派遣社員導入で正社員を削減したりする場合」
- 量化するまえに「熟練」スキルの構造を原理的に分析する必要
- 「労働とは何か」という基本問題にゆきつく。
- **効率化でどこまでも社会的労働を分解し変容させる資本主義の限界**

環境問題

環境問題

- 自然環境を原理的に捉える手がかりは、 と

環境問題

- 自然環境を原理的に捉える手がかりは、**再生産**と**本源的自然力**
- 再生産されない自然力には、コストの回収という考え方が通用しない。

環境問題

- 自然環境を原理的に捉える手がかりは、再生産と本源的自然力
- 再生産されない自然力には、コストの回収という考え方が通用しない。
- 資本は、自然力に対しては「買って売る」のではなく、一方的に「借りる」というかたちで対処

環境問題

- 自然環境を原理的に捉える手がかりは、再生産と本源的自然力
- 再生産されない自然力には、コストの回収という考え方が通用しない。
- 資本は、自然力に対しては「買って売る」のではなく、一方的に「借りる」というかたちで対処
- 再生産ベースで活動する産業資本は、自然環境との物質代謝を再生産という制御可能な領域に移そうとする傾向 [恒久的土地改良]

環境問題

- 自然環境を原理的に捉える手がかりは、再生産と本源的自然力
- 再生産されない自然力には、コストの回収という考え方が通用しない。
- 資本は、自然力に対しては「買って売る」のではなく、一方的に「借りる」というかたちで対処
- 再生産ベースで活動する産業資本は、自然環境との物質代謝を再生産という制御可能な領域に移そうとする傾向 [恒久的土地改良]
- だが、この制御可能性は見かけのもの

環境問題

- 自然環境を原理的に捉える手がかりは、再生産と本源的自然力
- 再生産されない自然力には、コストの回収という考え方が通用しない。
- 資本は、自然力に対しては「買って売る」のではなく、一方的に「借りる」というかたちで対処
- 再生産ベースで活動する産業資本は、自然環境との物質代謝を再生産という制御可能な領域に移そうとする傾向 [恒久的土地改良]
- だが、この制御可能性は見かけのもの
- 私的な欲望充足と資本の利潤追求という個別的動機を原動力に活性化する資本主義は、コントロールの輪を際限なく広げてゆく。

環境問題

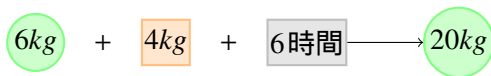
- 自然環境を原理的に捉える手がかりは、再生産と本源的自然力
- 再生産されない自然力には、コストの回収という考え方が通用しない。
- 資本は、自然力に対しては「買って売る」のではなく、一方的に「借りる」というかたちで対処
- 再生産ベースで活動する産業資本は、自然環境との物質代謝を再生産という制御可能な領域に移そうとする傾向 [恒久的土地改良]
- だが、この制御可能性は見かけのもの
- 私的な欲望充足と資本の利潤追求という個別的動機を原動力に活性化する資本主義は、コントロールの輪を際限なく広げてゆく。
- 先進諸国が新興諸国と同じ成長競争に引き込まれるかぎり、環境問題のリスクは高まる。

環境問題

- 自然環境を原理的に捉える手がかりは、再生産と本源的自然力
- 再生産されない自然力には、コストの回収という考え方が通用しない。
- 資本は、自然力に対しては「買って売る」のではなく、一方的に「借りる」というかたちで対処
- 再生産ベースで活動する産業資本は、自然環境との物質代謝を再生産という制御可能な領域に移そうとする傾向 [恒久的土地改良]
- だが、この制御可能性は見かけのもの
- 私的な欲望充足と資本の利潤追求という個別的動機を原動力に活性化する資本主義は、コントロールの輪を際限なく広げてゆく。
- 先進諸国が新興諸国と同じ成長競争に引き込まれるかぎり、環境問題のリスクは高まる。
- 環境問題の深刻化は、何のために消費するのかという、資本主義には厄介な目的自体の価値評価を迫る。

補填と取得の例解

p.157 の図II.2.5



補填と取得の例解

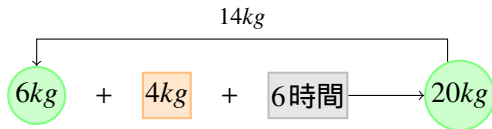
p.157 の図II.2.5

$$6kg + 4kg + 6時間 \longrightarrow 20kg$$

$$8kg + 4kg + 4時間 \longrightarrow 20kg$$

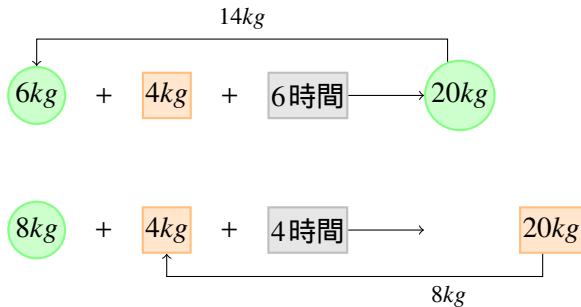
補填と取得の例解

p.157 の図II.2.5



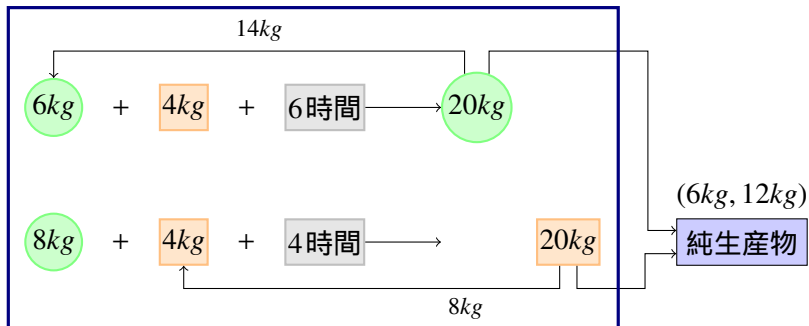
補填と取得の例解

p.157 の図II.2.5



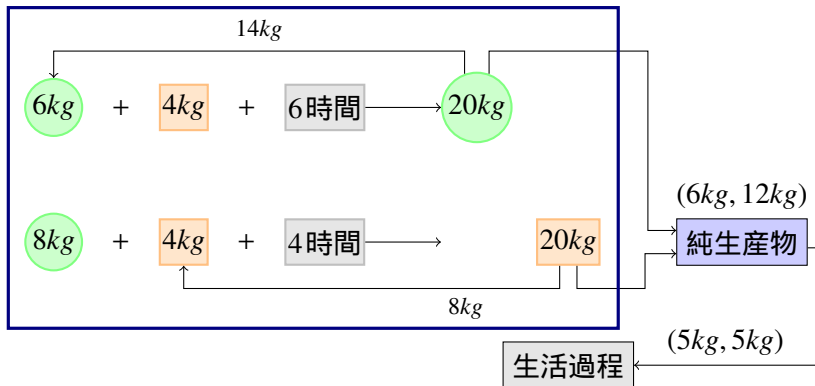
補填と取得の例解

p.157 の図II.2.5



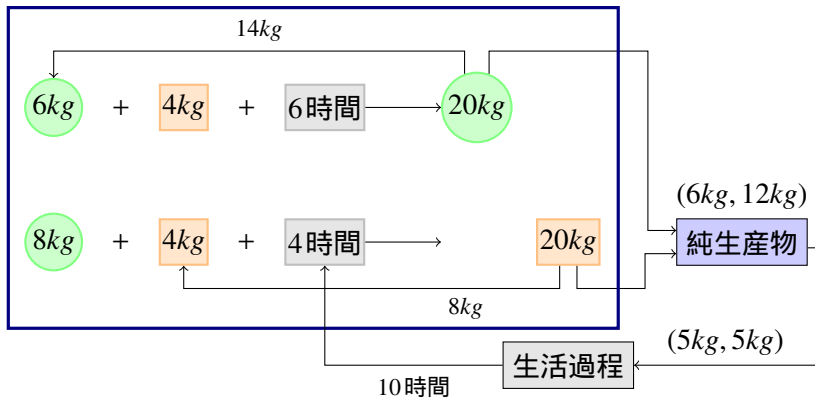
補填と取得の例解

p.157 の図II.2.5



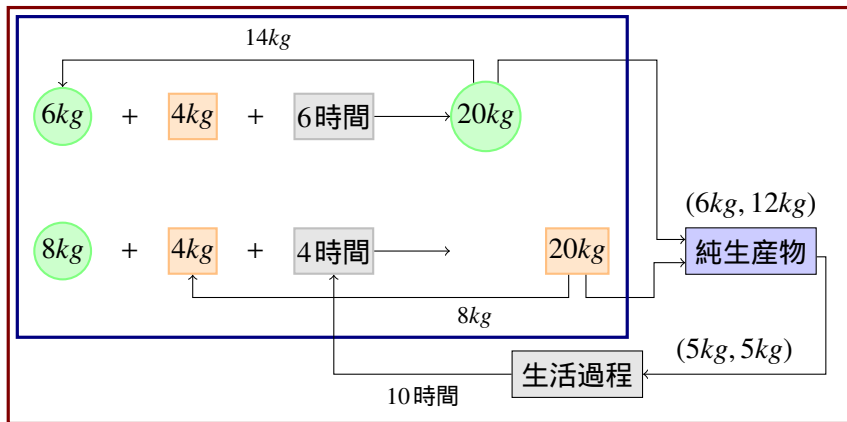
補填と取得の例解

p.157 の図II.2.5



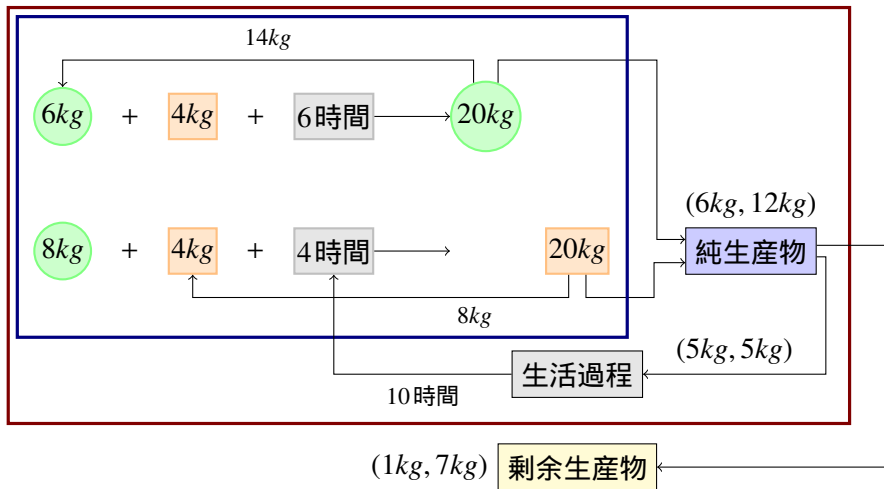
補填と取得の例解

p.157 の図II.2.5



補填と取得の例解

p.157 の図II.2.5



自然過程(p.101)

定義 3

自然過程 = 主体が「自然」を した「過程」

自然過程(p.101)

定義 3

自然過程 = 主体が「自然」を トリミング した「過程」

- という意味は？

自然過程(p.101)

定義 3

自然過程 = 主体が「自然」を トリミング した「過程」

- という意味は？

自然過程(p.101)

定義 3

自然過程 = 主体が「自然」を **トリミング** した「過程」

- **トリミング** という意味は？
- **自然環境の問題を考えるときに重要な出発点となる。**

生產過程

小麦 20kg → 小麦 30kg → 小麦 45 kg → …

生産過程

小麦 20kg → 小麦 30kg → 小麦 45 kg → …

- 自然過程は時間の流れに沿ってどこまでも進む。

生産過程

小麦 20kg → 小麦 30kg → 小麦 45 kg → …

- 自然過程は時間の流れに沿ってどこまでも進む。
- **自然過程を区切っているのは人間主体。**

生産過程

小麦 20kg → 小麦 30kg → 小麦 45 kg → …

- 自然過程は時間の流れに沿ってどこまでも進む。
- 自然過程を区切っているのは人間主体。
- **産出 (output) の一部が投入 (input) となることで**

生産過程

小麦 20kg → 小麦 30kg → 小麦 45 kg → …

- 自然過程は時間の流れに沿ってどこまでも進む。
- 自然過程を区切っているのは人間主体。
- 産出 (output) の一部が投入 (input) となることで
- 「循環」が生じる。

生産過程

小麦 20kg → 小麦 30kg → 小麦 45 kg → …

- 自然過程は時間の流れに沿ってどこまでも進む。
- 自然過程を区切っているのは人間主体。
- 産出 (output) の一部が投入 (input) となることで
- 「循環」が生じる。
- **自然過程のうちに循環を見てとるのも人間主体。**

生産過程

小麦20kg → 小麦30kg → 小麦45 kg → …

- 自然過程は時間の流れに沿ってどこまでも進む。
- 自然過程を区切っているのは人間主体。
- 産出 (output) の一部が投入 (input) となることで
- 「循環」が生じる。
- 自然過程のうちに循環を見てとるのも人間主体。
- *output > input* である自然過程が「生産過程」

生産過程

小麦20kg → 小麦30kg → 小麦45 kg → …

- 自然過程は時間の流れに沿ってどこまでも進む。
- 自然過程を区切っているのは人間主体。
- 産出 (output) の一部が投入 (input) となることで
- 「循環」が生じる。
- 自然過程のうちに循環を見てとるのも人間主体。
- $output > input$ である自然過程が「生産過程」

生産過程

小麦 20kg → 小麦 30kg → 小麦 45 kg → …

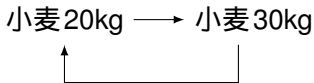
- 自然過程は時間の流れに沿ってどこまでも進む。
- 自然過程を区切っているのは人間主体。
- 産出 (output) の一部が投入 (input) となることで
- 「循環」が生じる。
- 自然過程のうちに循環を見てとるのも人間主体。
- $output > input$ である自然過程が「生産過程」

小麦 20kg → 小麦 30kg

生産過程

小麦 20kg → 小麦 30kg → 小麦 45 kg → …

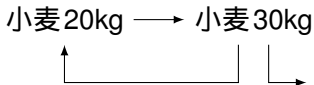
- 自然過程は時間の流れに沿ってどこまでも進む。
- 自然過程を区切っているのは人間主体。
- 産出 (output) の一部が投入 (input) となることで
- 「循環」が生じる。
- 自然過程のうちに循環を見てとるのも人間主体。
- $output > input$ である自然過程が「生産過程」



生産過程

小麦 20kg → 小麦 30kg → 小麦 45 kg → …

- 自然過程は時間の流れに沿ってどこまでも進む。
- 自然過程を区切っているのは人間主体。
- 産出 (output) の一部が投入 (input) となることで
- 「循環」が生じる。
- 自然過程のうちに循環を見てとるのも人間主体。
- $output > input$ である自然過程が「生産過程」



再生産

環境の問題を考えるうえで、より重要なのは、再生産の外枠。「再生産されない生産条件」の存在。

小麦 $20kg$ \longrightarrow 小麦 $30kg$

再生産

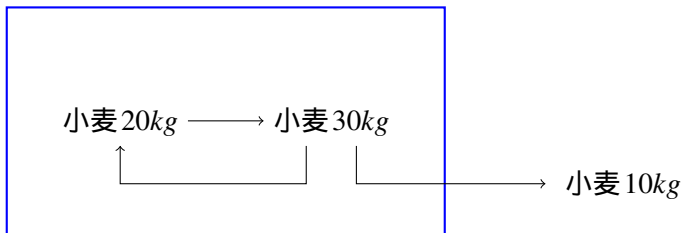
環境の問題を考えるうえで、より重要なのは、再生産の外枠。「再生産されない生産条件」の存在。

小麦 20kg → 小麦 30kg



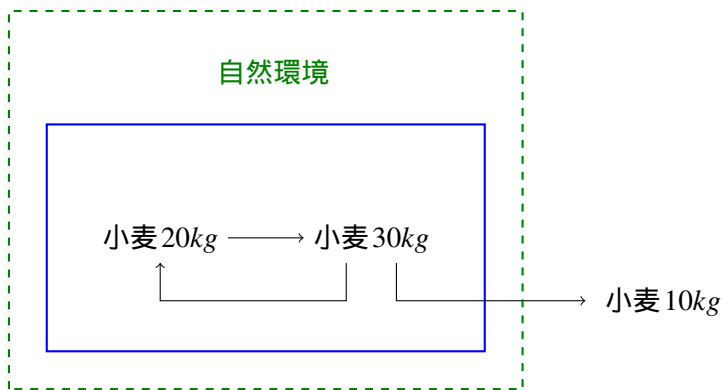
再生産

環境の問題を考えるうえで、より重要なのは、再生産の外枠。「再生産されない生産条件」の存在。



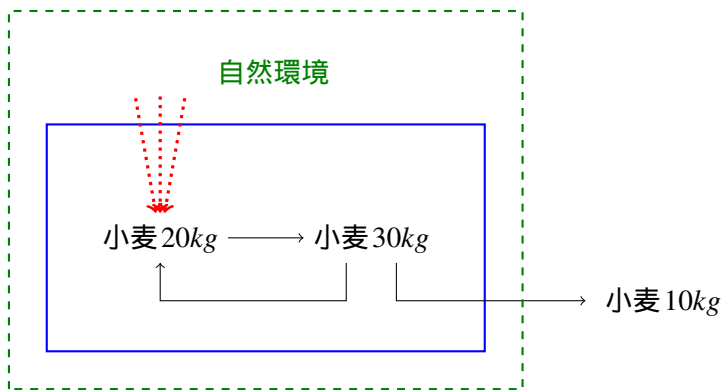
再生産

環境の問題を考えるうえで、より重要なのは、再生産の外枠。「再生産されない生産条件」の存在。



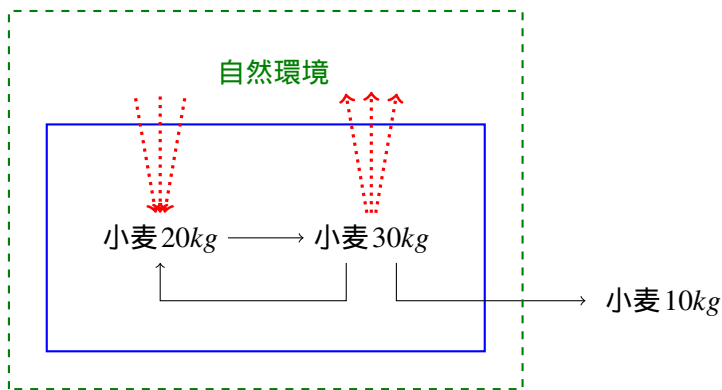
再生産

環境の問題を考えるうえで、より重要なのは、再生産の外枠。「再生産されない生産条件」の存在。



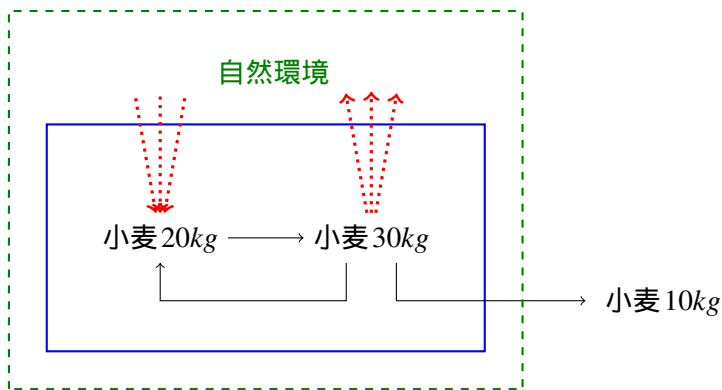
再生産

環境の問題を考えるうえで、より重要なのは、再生産の外枠。「再生産されない生産条件」の存在。



再生産

環境の問題を考えるうえで、より重要なのは、再生産の外枠。「再生産されない生産条件」の存在。



再生産概念の深化と価値論の発展

- 1 再生産という概念は、この関係を物量（モノの量）レベルで明示することで、商品価値の量規定を説明する潜在的な力を秘めていた。

再生産概念の深化と価値論の発展

- 1 再生産という概念は、この関係を物量（モノの量）レベルで明示することで、商品価値の量規定を説明する潜在的な力を秘めていた。
- 2 そして今日、それはマルクス経済学における価値論のコアとして威力を発揮することになった。

再生産概念の深化と価値論の発展

- 1 再生産という概念は、この関係を物量（モノの量）レベルで明示することで、商品価値の量規定を説明する潜在的な力を秘めていた。
- 2 そして今日、それはマルクス経済学における価値論のコアとして威力を発揮することになった。
- 3 私もこのラインで、マルクスの価値の量規定を追求してきた。

再生産概念の深化と価値論の発展

- 1 再生産という概念は、この関係を物量（モノの量）レベルで明示することで、商品価値の量規定を説明する潜在的な力を秘めていた。
- 2 そして今日、それはマルクス経済学における価値論のコアとして威力を発揮することになった。
- 3 私もこのラインで、マルクスの価値の量規定を追求してきた。
- 4 負の労働量：結合生産で廃棄物を理論化できるか？ 廃棄物も含む
□□□□的な「再生産」を考えていたような気がする。....浅はか
だった。

再生産概念の深化と価値論の発展

- 1 再生産という概念は、この関係を物量（モノの量）レベルで明示することで、商品価値の量規定を説明する潜在的な力を秘めていた。
- 2 そして今日、それはマルクス経済学における価値論のコアとして威力を発揮することになった。
- 3 私もこのラインで、マルクスの価値の量規定を追求してきた。
- 4 負の労働量：結合生産で廃棄物を理論化できるか？ 廃棄物も含む
□□□□的な「再生産」を考えていたような気がする。....浅はか
だった。

再生産概念の深化と価値論の発展

- 1 再生産という概念は、この関係を物量（モノの量）レベルで明示することで、商品価値の量規定を説明する潜在的な力を秘めていた。
- 2 そして今日、それはマルクス経済学における価値論のコアとして威力を発揮することになった。
- 3 私もこのラインで、マルクスの価値の量規定を追求してきた。
- 4 負の労働量：結合生産で廃棄物を理論化できるか？ 廃棄物も含む自己循環的な「再生産」を考えていたような気がする。.... 浅はかだった。
- 5 どんなにコストがかかってもよいすれば、完全リサイクルは可能であるか？

再生産概念の深化と価値論の発展

- 1 再生産という概念は、この関係を物量（モノの量）レベルで明示することで、商品価値の量規定を説明する潜在的な力を秘めていた。
- 2 そして今日、それはマルクス経済学における価値論のコアとして威力を発揮することになった。
- 3 私もこのラインで、マルクスの価値の量規定を追求してきた。
- 4 負の労働量：結合生産で廃棄物を理論化できるか？ 廃棄物も含む自己循環的な「再生産」を考えていたような気がする。.... 浅はかだった。
- 5 どんなにコストがかかってもよいすれば、完全リサイクルは可能であるか？

再生産概念の深化と価値論の発展

- 1 再生産という概念は、この関係を物量（モノの量）レベルで明示することで、商品価値の量規定を説明する潜在的な力を秘めていた。
- 2 そして今日、それはマルクス経済学における価値論のコアとして威力を発揮することになった。
- 3 私もこのラインで、マルクスの価値の量規定を追求してきた。
- 4 負の労働量：結合生産で廃棄物を理論化できるか？ 廃棄物も含む自己循環的な「再生産」を考えていたような気がする。....浅はかだった。
- 5 どんなにコストがかかってもよいすれば、完全リサイクルは可能であるか？あり得ない。
- 6 モノの再生産と物質代謝の違い（循環概念の差違）、エネルギーのフローの位相差を見失ったかも....

落とし穴

- 1 投入・産出の物量関係を自然的な過程と同一視

落とし穴

- 1 投入・産出の物量関係を自然的な過程と同一視
- 2 再生産というのはきわめて人為的な概念

落とし穴

- 1 投入・産出の物量関係を自然的な過程と同一視
- 2 再生産というのはきわめて人為的な概念
- 3 物質代謝の位相とモノの生産・消費の位相のズレがある。

落とし穴

- 1 投入・産出の物量関係を自然的な過程と同一視
- 2 再生産というのはきわめて人為的な概念
- 3 物質代謝の位相とモノの生産・消費の位相のズレがある。
- 4 再生産というのは、それ自体不可知で開放的な系である自然界から、技術的に制御できるモノの関係を した部分的な領域

落とし穴

- 1 投入・産出の物量関係を自然的な過程と同一視
- 2 再生産というのはきわめて人為的な概念
- 3 物質代謝の位相とモノの生産・消費の位相のズレがある。
- 4 再生産というのは、それ自体不可知で開放的な系である自然界から、技術的に制御できるモノの関係を した部分的な領域

落とし穴

- 1 投入・産出の物量関係を自然的な過程と同一視
- 2 再生産というのはきわめて人為的な概念
- 3 物質代謝の位相とモノの生産・消費の位相のズレがある。
- 4 再生産というのは、それ自体不可知で開放的な系である自然界から、技術的に制御できるモノの関係を「トリミング」した部分的な領域
- 5 再生産という概念は外部との物質のやりとりを含んでいる。

落とし穴

- 1 投入・産出の物量関係を自然的な過程と同一視
- 2 再生産というのはきわめて人為的な概念
- 3 物質代謝の位相とモノの生産・消費の位相のズレがある。
- 4 再生産というのは、それ自体不可知で開放的な系である自然界から、技術的に制御できるモノの関係を「トリミング」した部分的な領域
- 5 再生産という概念は外部との物質のやりとりを含んでいる。
- 6 ただそれを切り捨てることで辛うじて人間の目に制御可能に見える領域を設定しているに過ぎない。

落とし穴

- 1 投入・産出の物量関係を自然的な過程と同一視
- 2 再生産というのはきわめて人為的な概念
- 3 物質代謝の位相とモノの生産・消費の位相のズレがある。
- 4 再生産というのは、それ自体不可知で開放的な系である自然界から、技術的に制御できるモノの関係を「トリミング」した部分的な領域
- 5 再生産という概念は外部との物質のやりとりを含んでいる。
- 6 ただそれを切り捨てることで辛うじて人間の目に制御可能に見える領域を設定しているに過ぎない。
- 7 再生産の構造が精緻化されればされるほど、逆に、物質代謝とのズレ、外部依存性はその影に隠れみえにくくなる。

再生産と再生可能

- エネルギーを再生産 する

再生産と再生可能

- エネルギーを再生産 する

再生産と再生可能

- エネルギーを再生産 **reproduction** する

再生産と再生可能

- エネルギーを再生産 **reproduction** する.....ということはありません。

再生産と再生可能

- エネルギーを再生産 **reproduction** する.....ということはありません。
- 可能なのは、エネルギーの形態変化。

再生産と再生可能

- エネルギーを再生産 **reproduction** する.....ということはありません。
- 可能なのは、エネルギーの形態変化。

再生産と再生可能

- エネルギーを再生産 **reproduction** する.....ということはありません。
- 可能なのは、エネルギーの形態変化。これは、かならずロスがでる。

再生産と再生可能

- エネルギーを再生産 **reproduction** する.....ということはありません。
- 可能なのは、エネルギーの形態変化。....これは、かならずロスがでる。
- エネルギーに関しては、再生産できかどうかではなく、再生可能 かどうか、が問われる。

再生産と再生可能

- エネルギーを再生産 **reproduction** する.....ということはありません。
- 可能なのは、エネルギーの形態変化。....これは、かならずロスがでる。
- エネルギーに関しては、再生産できかどうかではなく、再生可能 かどうか、が問われる。

再生産と再生可能

- エネルギーを再生産 **reproduction** する.....ということはありません。
- 可能なのは、エネルギーの形態変化。....これは、かならずロスがでる。
- エネルギーに関しては、再生産できかどうかではなく、再生可能 **renewable** かどうか、が問われる。
- この区別も相対的なものである。

再生産と再生可能

- エネルギーを再生産 **reproduction** する.....ということはありません。
- 可能なのは、エネルギーの形態変化。....これは、かならずロスがでる。
- エネルギーに関しては、再生産できかどうかではなく、再生可能 **renewable** かどうか、が問われる。
- この区別も相対的なものである。
- 石炭も過去に植物が光エネルギーを化学エネルギーに変えたものが変質したもの

再生産と再生可能

- エネルギーを再生産 **reproduction** する.....ということはありません。
- 可能なのは、エネルギーの形態変化。....これは、かならずロスがでる。
- エネルギーに関しては、再生産できかどうかではなく、再生可能 **renewable** かどうか、が問われる。
- この区別も相対的なものである。
- 石炭も過去に植物が光エネルギーを化学エネルギーに変えたものが変質したもの
- 数年前から光エネルギーのストックである薪（バイオマス）と絶対的な区別はない。

地球のエネルギー収支

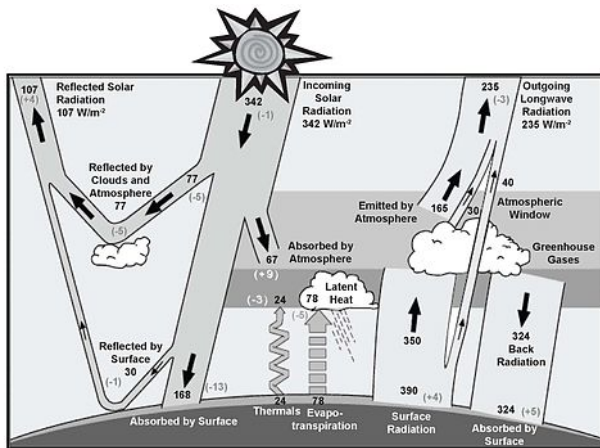
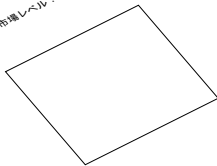


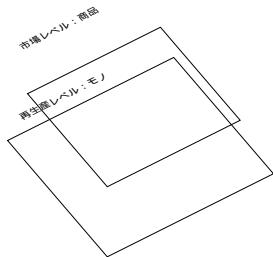
Figure: 地球のエネルギー収支の詳細な図 (EOSPSO による。PD USGov)

4つの位相

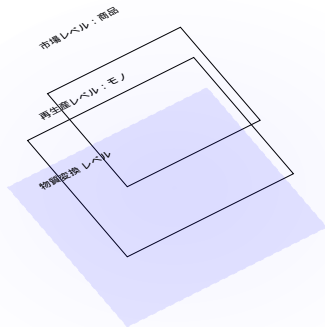
市場レベル：商品



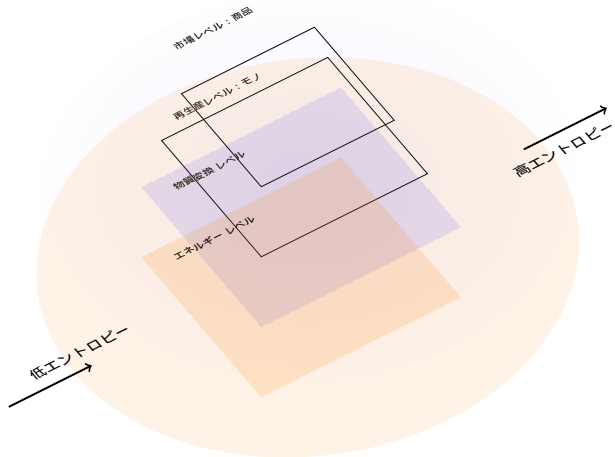
4つの位相



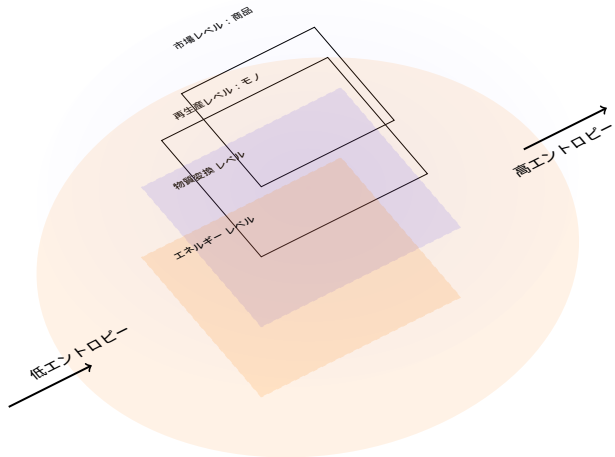
4つの位相



4つの位相



4つの位相



資本主義と自然環境

- 「自然環境」は「再生産」できるか？ 「再生産」という概念の濫用。

資本主義と自然環境

- 「自然環境」は「再生産」できるか？
- 労働でコントロールできない（不可知の）環境のなかで、コントロールできる「再生産」が営まれている。

資本主義と自然環境

- 「自然環境」は「再生産」できるか？
- 労働でコントロールできない（不可知の）環境のなかで、コントロールできる「再生産」が営まれている。
- コントロールできる領域を拡大すれば、その分、不可知の領域との境界面も拡大。

資本主義と自然環境

- 「自然環境」は「再生産」できるか？
- 労働でコントロールできない（不可知の）環境のなかで、コントロールできる「再生産」が営まれている。
- コントロールできる領域を拡大すれば、その分、不可知の領域との境界面も拡大。
- 資本主義にはどこまでも、コントロール可能な領域を拡張しようとする内圧がある。

資本主義と自然環境

- 「自然環境」は「再生産」できるか？
- 労働でコントロールできない（不可知の）環境のなかで、コントロールできる「再生産」が営まれている。
- コントロールできる領域を拡大すれば、その分、不可知の領域との境界面も拡大。
- 資本主義にはどこまでも、コントロール可能な領域を拡張しようとする内圧がある。
- 自然のコントロールではなく、資本主義のコントロール。

資本主義と自然環境

- 「自然環境」は「再生産」できるか？
- 労働でコントロールできない（不可知の）環境のなかで、コントロールできる「再生産」が営まれている。
- コントロールできる領域を拡大すれば、その分、不可知の領域との境界面も拡大。
- 資本主義にはどこまでも、コントロール可能な領域を拡張しようとする内圧がある。
- 自然のコントロールではなく、資本主義のコントロール。
- 資本主義の放つイデオロギー性。資本主義のなかに生きながら、資本主義をコントロールすることの困難。

資本主義と自然環境

- 「自然環境」は「再生産」できるか？
- 労働でコントロールできない（不可知の）環境のなかで、コントロールできる「再生産」が営まれている。
- コントロールできる領域を拡大すれば、その分、不可知の領域との境界面も拡大。
- 資本主義にはどこまでも、コントロール可能な領域を拡張しようとする内圧がある。
- 自然のコントロールではなく、資本主義のコントロール。
- 資本主義の放つイデオロギー性。資本主義のなかに生きながら、資本主義をコントロールすることの困難。
- だれも外側から宇宙を眺めることはできないように、資本主義も外側から眺めることはできない。

資本主義と自然環境

- 「自然環境」は「再生産」できるか？
- 労働でコントロールできない（不可知の）環境のなかで、コントロールできる「再生産」が営まれている。
- コントロールできる領域を拡大すれば、その分、不可知の領域との境界面も拡大。
- 資本主義にはどこまでも、コントロール可能な領域を拡張しようとする内圧がある。
- 自然のコントロールではなく、資本主義のコントロール。
- 資本主義の放つイデオロギー性。資本主義のなかに生きながら、資本主義をコントロールすることの困難。
- だれも外側から宇宙を眺めることはできないように、資本主義も外側から眺めることはできない。
- それでも、内部から全体の特性を知る、という経済原論の役割。

所有問題

所有問題

- グローバリズムのもとで、先進諸国における労働の中心はモノの生産から知識・情報の獲得にシフトしつつある。

所有問題

- グローバリズムのもとで、先進諸国における労働の中心はモノの生産から知識・情報の獲得にシフトしつつある。
- こうした対象ははたして資本主義による処理に馴染むかどうか。

所有問題

- グローバリズムのもとで、先進諸国における労働の中心はモノの生産から知識・情報の獲得にシフトしつつある。
- こうした対象ははたして資本主義による処理に馴染むかどうか。
- ポイントは [] と []

所有問題

- グローバリズムのもとで、先進諸国における労働の中心はモノの生産から知識・情報の獲得にシフトしつつある。
- こうした対象ははたして資本主義による処理に馴染むかどうか。
- ポイントは **私的所有** と **発見**
- これまで独立したモノとは考えられてこなかった情報や知識が、次々にモノと見なされ、市場に取りこまれてゆく。(モノの三層構造、参照)

所有問題

- グローバリズムのもとで、先進諸国における労働の中心はモノの生産から知識・情報の獲得にシフトしつつある。
- こうした対象ははたして資本主義による処理に馴染むかどうか。
- ポイントは私的所有と発見
- これまで独立したモノとは考えられてこなかった情報や知識が、次々にモノと見なされ、市場に取りこまれてゆく。(モノの三層構造、参照)
- 知識や情報に対して私的所有を正当化するイデオロギーは「発見に基づく所有」

所有問題

- グローバリズムのもとで、先進諸国における労働の中心はモノの生産から知識・情報の獲得にシフトしつつある。
- こうした対象ははたして資本主義による処理に馴染むかどうか。
- ポイントは私的所有と発見
- これまで独立したモノとは考えられてこなかった情報や知識が、次々にモノと見なされ、市場に取りこまれてゆく。(モノの三層構造、参照)
- 知識や情報に対して私的所有を正当化するイデオロギーは「発見に基づく所有」
- 資本は、同種のモノが大量に生産・消費されるフローを、安く買って高く売るという姿態変換に組み込む処理方式。

所有問題

- グローバリズムのもとで、先進諸国における労働の中心はモノの生産から知識・情報の獲得にシフトしつつある。
- こうした対象ははたして資本主義による処理に馴染むかどうか。
- ポイントは私的所有と発見
- これまで独立したモノとは考えられてこなかった情報や知識が、次々にモノと見なされ、市場に取りこまれてゆく。(モノの三層構造、参照)
- 知識や情報に対して私的所有を正当化するイデオロギーは「発見に基づく所有」
- 資本は、同種のモノが大量に生産・消費されるフローを、安く買って高く売るという姿態変換に組み込む処理方式。
- しかし、発見については、コスト回収の原理が適用しにくい。

所有問題

- グローバリズムのもとで、先進諸国における労働の中心はモノの生産から知識・情報の獲得にシフトしつつある。
- こうした対象ははたして資本主義による処理に馴染むかどうか。
- ポイントは私的所有と発見
- これまで独立したモノとは考えられてこなかった情報や知識が、次々にモノと見なされ、市場に取りこまれてゆく。(モノの三層構造、参照)
- 知識や情報に対して私的所有を正当化するイデオロギーは「発見に基づく所有」
- 資本は、同種のモノが大量に生産・消費されるフローを、安く買って高く売るという姿態変換に組み込む処理方式。
- しかし、発見については、コスト回収の原理が適用しにくい。
- 知的活動の領域への資本の浸透は、これまで漠然と「共有」の理念で支えられてきた社会的規範に軋轢を生みだす。

所有問題

- グローバリズムのもとで、先進諸国における労働の中心はモノの生産から知識・情報の獲得にシフトしつつある。
- こうした対象ははたして資本主義による処理に馴染むかどうか。
- ポイントは私的所有と発見
- これまで独立したモノとは考えられてこなかった情報や知識が、次々にモノと見なされ、市場に取りこまれてゆく。(モノの三層構造、参照)
- 知識や情報に対して私的所有を正当化するイデオロギーは「発見に基づく所有」
- 資本は、同種のモノが大量に生産・消費されるフローを、安く買って高く売るという姿態変換に組み込む処理方式。
- しかし、発見については、コスト回収の原理が適用しにくい。
- 知的活動の領域への資本の浸透は、これまで漠然と「共有」の理念で支えられてきた社会的規範に軋轢を生みだす。
- 人間社会のどの領域を、いかなるかたちで営利活動に委ねるべきか、資本主義がクールに避けてきたイデオロギー・コンフリクトが表面化。

モノの複製

発見と生産

さまざまな対象が、商品になってゆく現代。モノとは何か、よく考えてみる必要がある。

モノの複製

発見と生産

さまざまな対象が、商品になってゆく現代。モノとは何か、よく考えてみる必要がある。

問題

モノは複製によってふえるのか？

モノの複製

発見と生産

さまざまな対象が、商品になってゆく現代。モノとは何か、よく考えてみる必要がある。

問題

モノは複製によってふえるのか？

- P =紙の束としての本 と Q =その本の内容（情報）。

モノの複製

発見と生産

さまざまな対象が、商品になってゆく現代。モノとは何か、よく考えてみる必要がある。

問題

モノは複製によってふえるのか？

- P =紙の束としての本 と Q =その本の内容（情報）。
- 物理学でいう「物」は、 P か、 Q か？

モノの複製

発見と生産

さまざまな対象が、商品になってゆく現代。モノとは何か、よく考えてみる必要がある。

問題

モノは複製によってふえるのか？

- P =紙の束としての本 と Q =その本の内容（情報）。
- 物理学でいう「物」は、 P か、 Q か？
- 当然 P でしょう。

モノの複製

発見と生産

さまざまな対象が、商品になってゆく現代。モノとは何か、よく考えてみる必要がある。

問題

モノは複製によってふえるのか？

- P =紙の束としての本 と Q =その本の内容（情報）。
- 物理学でいう「物」は、 P か、 Q か？
- 当然 P でしょう。
- P はまた同時に「モノ」でもある。

モノの複製

発見と生産

さまざまな対象が、商品になってゆく現代。モノとは何か、よく考えてみる必要がある。

問題

モノは複製によってふえるのか？

- P =紙の束としての本 と Q =その本の内容（情報）。
- 物理学でいう「物」は、 P か、 Q か？
- 当然 P でしょう。
- P はまた同時に「モノ」でもある。
- では、 Q は「モノ」かな？

モノの複製

発見と生産

さまざまな対象が、商品になってゆく現代。モノとは何か、よく考えてみる必要がある。

問題

モノは複製によってふえるのか？

- P =紙の束としての本 と Q =その本の内容（情報）。
- 物理学でいう「物」は、 P か、 Q か？
- 当然 P でしょう。
- P はまた同時に「モノ」でもある。
- では、 Q は「モノ」かな？
- Q を排他的に私有できるか？ つまり「モノ」にできるか？。

モノの複製

発見と生産

さまざまな対象が、商品になってゆく現代。モノとは何か、よく考えてみる必要がある。

モノの複製

発見と生産

さまざまな対象が、商品になってゆく現代。モノとは何か、よく考えてみる必要がある。

- P と Q が別々に扱える、ということは、商品化によってはじめて発生したことではない。

モノの複製

発見と生産

さまざまな対象が、商品になってゆく現代。モノとは何か、よく考えてみる必要がある。

- P と Q が別々に扱える、ということは、商品化によってはじめて発生したことではない。
- しかし、この**分離可能性**は重要。

モノの複製

発見と生産

さまざまな対象が、商品になってゆく現代。モノとは何か、よく考えてみる必要がある。

- P と Q が別々に扱える、ということは、商品化によってはじめて発生したことではない。
- しかし、この**分離可能性**は重要。
- Q 自体を商品にするためには、 Q と P を分離することが前提。

モノの複製

発見と生産

さまざまな対象が、商品になってゆく現代。モノとは何か、よく考えてみる必要がある。

- P と Q が別々に扱える、ということは、商品化によってはじめて発生したことではない。
- しかし、この**分離可能性**は重要。
- Q 自体を商品にするためには、 Q と P を分離することが前提。
- しかし、それでも、 Q そのものを売ることはむずかしい。

モノの複製

発見と生産

さまざまな対象が、商品になってゆく現代。モノとは何か、よく考えてみる必要がある。

- P と Q が別々に扱える、ということは、商品化によってはじめて発生したことではない。
- しかし、この**分離可能性**は重要。
- Q 自体を商品にするためには、 Q と P を分離することが前提。
- しかし、それでも、 Q そのものを売ることはむずかしい。
- 市場経済の発達は、この分離を促進する。

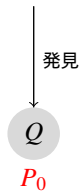
物とモノ

発見と生産

↓ 発見
 Q

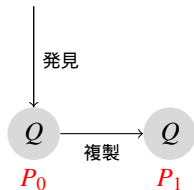
物とモノ

発見と生産



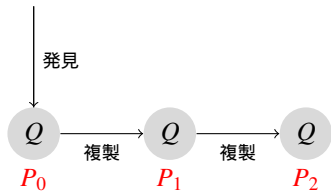
物とモノ

発見と生産



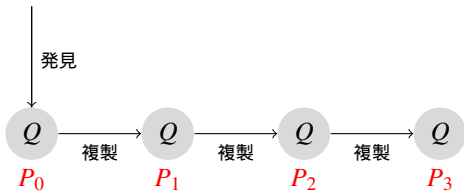
物とモノ

発見と生産



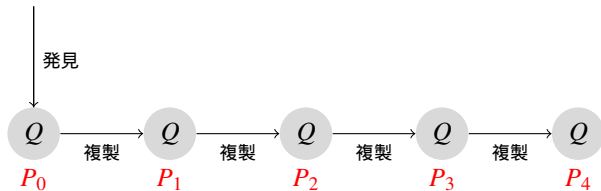
物とモノ

発見と生産



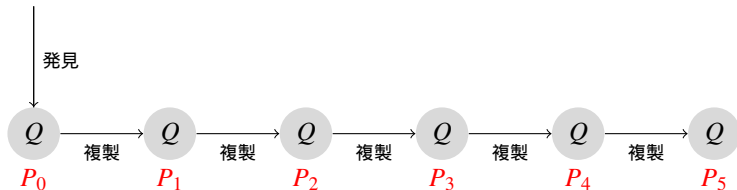
物とモノ

発見と生産



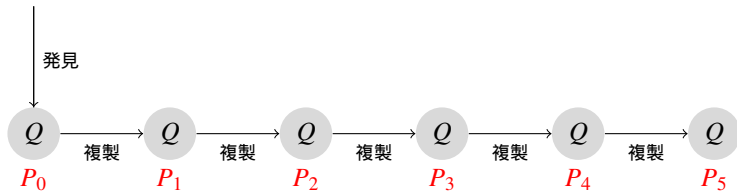
物とモノ

発見と生産



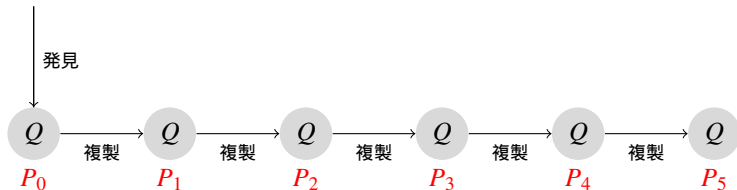
物とモノ

発見と生産



物とモノ

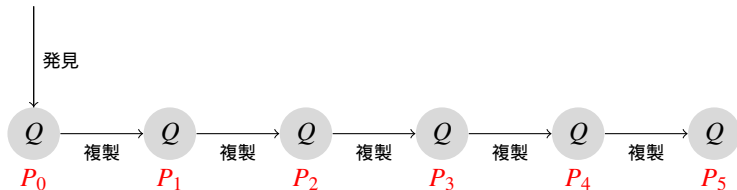
発見と生産



- P は「物」であり「モノ」でもある。

物とモノ

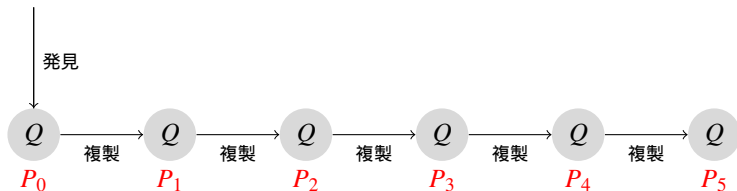
発見と生産



- P は「物」であり「モノ」でもある。
- Q は「物」ではないが「モノ」である。

物とモノ

発見と生産



- P は「物」であり「モノ」でもある。
- Q は「物」ではないが「モノ」である。
- この区別は、情報の商品化を考える基礎として重要。

モノの三層構造

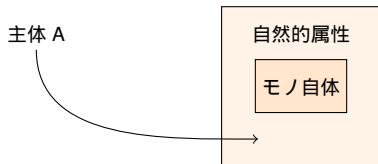
モノ自体

モノの三層構造

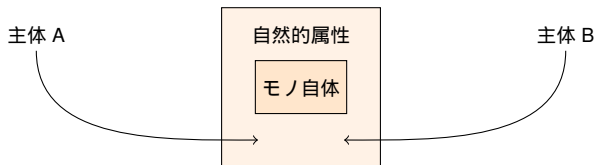
自然的属性

モノ自体

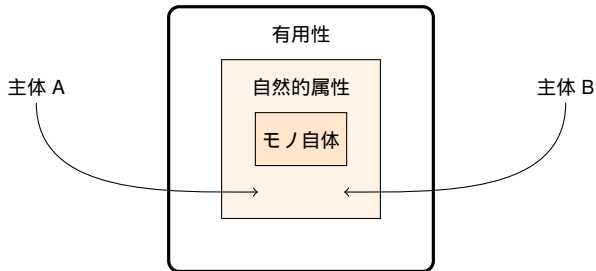
モノの三層構造



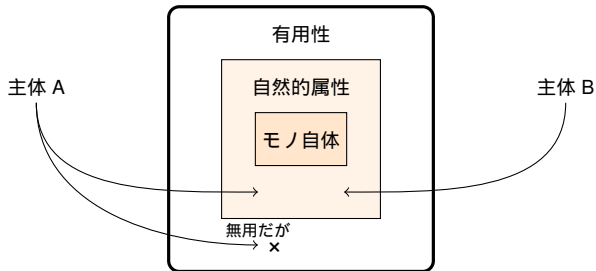
モノの三層構造



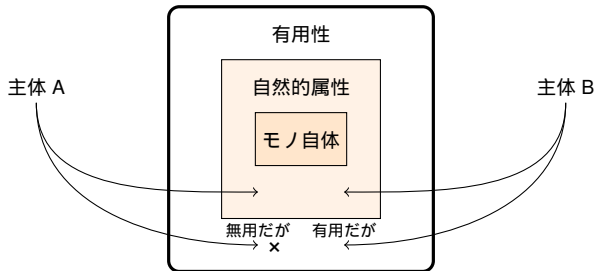
モノの三層構造



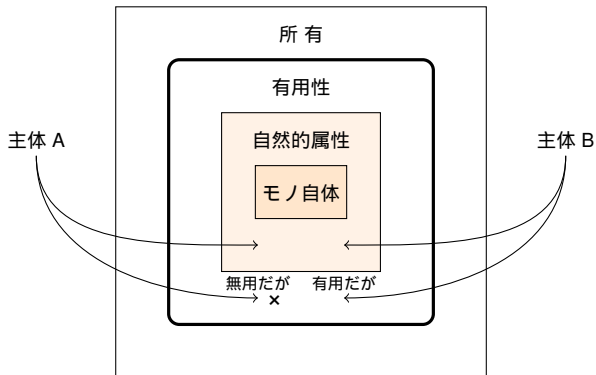
モノの三層構造



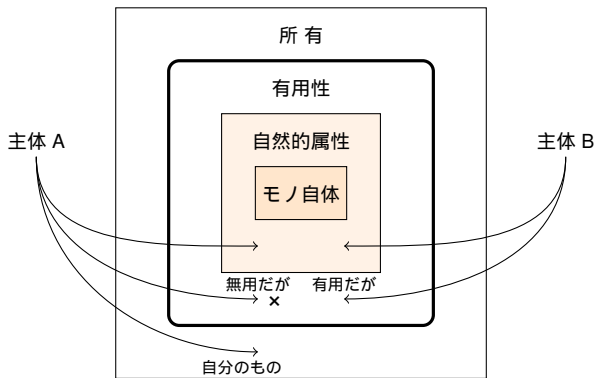
モノの三層構造



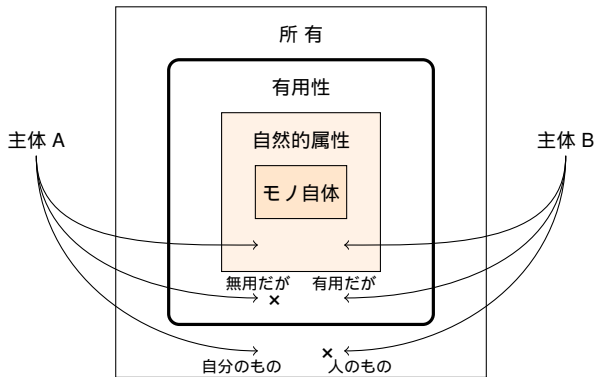
モノの三層構造



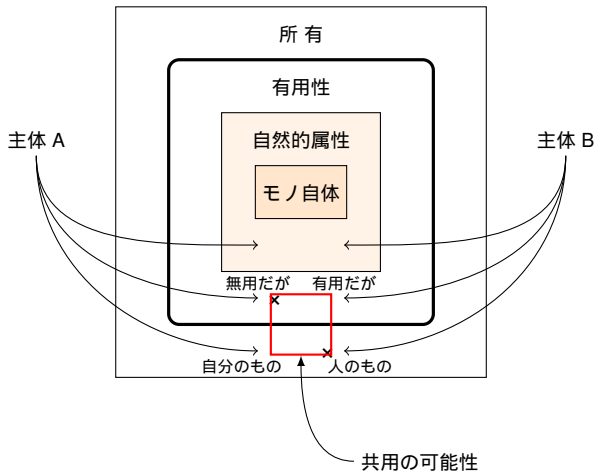
モノの三層構造



モノの三層構造



モノの三層構造



所有という概念

- 個人的所有 individuelles Eigentum : 主体の生存と意思から必然的に発生するモノの支配 : たとえば身体

所有という概念

- 個人的所有 individuelles Eigentum : 主体の生存と意思から必然的に発生するモノの支配 : たとえば身体
- 個人的所有の延長 : 生きてゆくには食料も必要、胃袋に入った食べ物は当然..... と拡張してゆくと

所有という概念

- 個人的所有 individuelles Eigentum : 主体の生存と意思から必然的に発生するモノの支配 : たとえば身体
- 個人的所有の延長 : 生きてゆくには食料も必要、胃袋に入った食べ物は当然..... と拡張してゆくと
- 衣服だって、家だって.....

所有という概念

- 個人的所有 individuelles Eigentum : 主体の生存と意思から必然的に発生するモノの支配 : たとえば身体
- 個人的所有の延長 : 生きてゆくには食料も必要、胃袋に入った食べ物は当然..... と拡張してゆくと
- 衣服だって、家だって.....
- 私的所有 Privateigentum : イデオロギーによって絶対視された、モノに対する排他的な支配

所有という概念

- 個人的所有 individuelles Eigentum : 主体の生存と意思から必然的に発生するモノの支配 : たとえば身体
- 個人的所有の延長 : 生きてゆくには食料も必要、胃袋に入った食べ物は当然..... と拡張してゆくと
- 衣服だって、家だって.....
- 私的所有 Privateigentum : イデオロギーによって絶対視された、モノに対する排他的な支配
- 私的個人と私的所有は同次元の概念 (私的個人 → 私的所有 という一方向の因果関係はない。私的個人 → 私的所有)

所有という概念

個人的所有と私的所有

- ゼットタイに自分のものだといえるものはあるのか？

所有という概念

個人的所有と私的所有

- ゼツタイに自分のものだといえるものはあるのか？
- 自分の命はゼツタイに自分のもだ といえるか？

所有という概念

個人的所有と私的所有

- ゼツタイに自分のものだといえるものはあるのか？
- 自分の命はゼツタイに自分のものだ といえるか？
- 自分の身体は、遺伝子は といえるか？

所有という概念

個人的所有と私的所有

- ゼツタイに自分のものだといえるものはあるのか？
- 自分の命はゼツタイに自分のものだ といえるか？
- 自分の身体は、遺伝子は といえるか？
- 自然環境は.... 海洋は....

所有という概念

個人的所有と私的所有

- ゼツタイに自分のものだといえるものはあるのか？
- 自分の命はゼツタイに自分のものだ といえるか？
- 自分の身体は、遺伝子は といえるか？
- 自然環境は.... 海洋は....
- 知識は.... 情報は.... 言葉は....

所有という概念

個人的所有と私的所有

- ゼツタイに自分のものだといえるものはあるのか？
- 自分の命はゼツタイに自分のものだ といえるか？
- 自分の身体は、遺伝子は といえるか？
- 自然環境は.... 海洋は....
- 知識は.... 情報は.... 言葉は....
- 考えるとホントはよくわからないが、そう信じてられる規範はある。

所有という概念

個人的所有と私的所有

- ゼツタイに自分のものだといえるものはあるのか？
- 自分の命はゼツタイに自分のものだ といえるか？
- 自分の身体は、遺伝子は といえるか？
- 自然環境は.... 海洋は....
- 知識は.... 情報は.... 言葉は....
- 考えるとホントはよくわからないが、そう信じてられる規範はある。
- 「みんなもそういつているし...」というかたちで、社会的に支持されている価値観：イデオロギー

所有という概念

個人的所有と私的所有

- ゼツタイに自分のものだといえるものはあるのか？
- 自分の命はゼツタイに自分のものだ といえるか？
- 自分の身体は、遺伝子は といえるか？
- 自然環境は.... 海洋は....
- 知識は.... 情報は.... 言葉は....
- 考えるとホントはよくわからないが、そう信じてられる規範はある。
- 「みんなもそういつているし...」というかたちで、社会的に支持されている価値観：イデオロギー
- 資本主義のもとで、いま激しく変容している所有概念

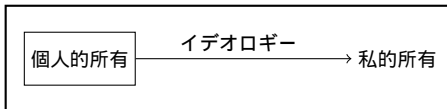
所有という概念

個人的所有と私的所有

個人的所有

所有という概念

個人的所有と私的所有



資本主義のゆくえ

- 熟成に続く離脱

資本主義のゆくえ

- 熟成に続く離脱
- 離脱の原動力は、生産とはいえない領域への営利企業の止めどない
滲透・分解作用

資本主義のゆくえ

- 熟成に続く離脱
- 離脱の原動力は、生産とはいえない領域への営利企業の止めどない
滲透・分解作用
- 離脱は市場そのものの全面的廃棄にはならない。

資本主義のゆくえ

- 熟成に続く離脱
- 離脱の原動力は、生産とはいえない領域への営利企業の止めどない
滲透・分解作用
- 離脱は市場そのものの全面的廃棄にはならない。
- 再生産の領域では営利企業が活動

資本主義のゆくえ

- 熟成に続く離脱
- 離脱の原動力は、生産とはいえない領域への営利企業の止めどない
滲透・分解作用
- 離脱は市場そのものの全面的廃棄にはならない。
- 再生産の領域では営利企業が活動
- インプット・アウトプットに技術的確定性→目的に対する手段の効率化

資本主義のゆくえ

- 熟成に続く離脱
- 離脱の原動力は、生産とはいえない領域への営利企業の止めどない
滲透・分解作用
- 離脱は市場そのものの全面的廃棄にはならない。
- 再生産の領域では営利企業が活動
- インプット・アウトプットに技術的確定性→目的に対する手段の効率化
- 生活過程の局面でなされるさまざまな消費的労働も、賃金を通じて社会的に評価する必要

資本主義のゆくえ

- 熟成に続く離脱
- 離脱の原動力は、生産とはいえない領域への営利企業の止めどない
滲透・分解作用
- 離脱は市場そのものの全面的廃棄にはならない。
- 再生産の領域では営利企業が活動
- インプット・アウトプットに技術的確定性→目的に対する手段の効率化
- 生活過程の局面でなされるさまざまな消費的労働も、賃金を通じて社会的に評価する必要
- 社会的な労働のスタイルや評価の方式

資本主義のゆくえ

- 熟成に続く離脱
- 離脱の原動力は、生産とはいえない領域への営利企業の止めどない滲透・分解作用
- 離脱は市場そのものの全面的廃棄にはならない。
- 再生産の領域では営利企業が活動
- インプット・アウトプットに技術的確定性→目的に対する手段の効率化
- 生活過程の局面でなされるさまざまな消費的労働も、賃金を通じて社会的に評価する必要
- 社会的な労働のスタイルや評価の方式
- 貨幣（的なもの）の使用は人間の本性に深く根ざす

資本主義のゆくえ

- 熟成に続く離脱
- 離脱の原動力は、生産とはいえない領域への営利企業の止めどない
滲透・分解作用
- 離脱は市場そのものの全面的廃棄にはならない。
- 再生産の領域では営利企業が活動
- インプット・アウトプットに技術的確定性→目的に対する手段の効率化
- 生活過程の局面でなされるさまざまな消費的労働も、賃金を通じて社会的に評価する必要
- 社会的な労働のスタイルや評価の方式
- 貨幣（的なもの）の使用は人間の本性に深く根ざす
- 非営利的市場の可能性

資本主義のゆくえ

- 熟成に続く離脱
- 離脱の原動力は、生産とはいえない領域への営利企業の止めどない滲透・分解作用
- 離脱は市場そのものの全面的廃棄にはならない。
- 再生産の領域では営利企業が活動
- インプット・アウトプットに技術的確定性→目的に対する手段の効率化
- 生活過程の局面でなされるさまざまな消費的労働も、賃金を通じて社会的に評価する必要
- 社会的な労働のスタイルや評価の方式
- 貨幣（的なもの）の使用は人間の本性に深く根ざす
- 非営利的市場の可能性
- 物的生産とは異なる社会生活の領域において、それに相応しい労働のスタイルと、新たな社会的剰余の分配方式が模索されてゆく